

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	県立のじぎく会館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県人権啓発協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃(共用部、会議室、ホール、便所等:毎日)、床面ワックス及びガラス清拭(年1回)	会議室の利用状況に応じ効率的に清掃を実施するなど、業務を安価かつ良好に実施できた。	○	◎
	設備保守管理	電気工作物保守管理(年2回)、エレベーター保守点検(月1回)等を専門業者に依頼し実施	必要な設備保守点検を良好かつ適確に実施した。	◎	◎
	植栽管理	玄関、中庭等の植栽を日常的に管理する	植栽を美しく保つことにより、施設の良好な環境を維持できた。	○	○
	警備	専門業者に警備を依頼	盗難等の被害もなく、警備業務を良好に実施できた。	◎	◎
	小規模修繕	利用者の安全確保等のため不具合を発見次第、迅速に実施	今後とも、設備の状況を把握し、不具合には適切に対応していく。	○	◎
	法定点検の実施	非常用電源装置の点検等、法令に従って実施	必要な設備保守点検を良好かつ適確に実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日:祝日、年末年始(12月29日～1月3日)、開館時間:9時～17時	施設の稼働率増に向けて、今後とも、利用者ニーズの動向を踏まえながら検討する。	○	○
	公共性・公平性の確保	業務実施において、特に中立性、公平性、公正性の確保に留意	業務実施において、公平性、公正性の確保に留意し、良好に実施できた。	○	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	指定管理協定に基づき人権に関する研修、啓発、研究を行い、会館施設の維持管理を実施する。	研修:県職員、市町職員研修、企業人権研修、住民研修への講師派遣等を実施した。 啓発:「ひょうご・ヒューマンフェスティバル」、「人権のつどい」の実施、情報誌「きずな」の発行等を実施した。 研究:研究紀要の作成や人権相談等の事業を実施した。	○	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	年1回会館利用者にアンケートを実施	アンケート結果を施設の環境整備に反映させている。	○	◎
利用 状況	利用者数	39,743人 [前年度:33,247人]	Wi-Fi 完全整備等、会館の利便性の推進を図り、利用者数向上を目指す。	○	○

	施設稼働率	31.2%[前年度:29.5%]	同上	○	○
収支状況	収支計画と実績	指定管理料:6,654千円 利用料金収入:13,656千円	指定管理料:8,128千円 利用料金収入:14,550千円	○	○
	経費節減に向けた取組	光熱水費、コピー代等節約の徹底	館内廊下の電灯の間引等による節電や、コピー用紙等の事務用品の経費節減に努めた。	○	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	会館利用に関する様々な要望(開閉館の時間、荷物の一時預かり等)について、協会全体として統一した対応を実施	対応可能なものについては、その都度決め細やかに対応した。	○	◎
	危機管理体制の確保	自然災害(地震、台風等)や事故災害(火災、けが、急病等)の発生に備え、のじぎく会館利用者の安全を確保するため、危機管理マニュアルを策定し、危機管理体制を構築している。 消防訓練の実施(9月、2月)危機管理時の連絡体制、マニュアルを整備	災害等発生時に利用者の安全確保を最優先にして適切に行動できるよう、危機管理面、安全面の対応体制を確保していく。	○	○
	県・関係機関との連携	利用状況等について県所管課と情報交換等を密にし、県関係機関の利用促進や各種事業を県との連携強化を図りながら推進した。	県との連携により、会館利用促進や事業充実を図ることができた。	○	◎
	業務の再委託の状況	専門的なスキル・技術を要する会館管理業務について再委託を実施	適切な再委託により、効率的な会館管理・運営を実施することができた。	○	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

適切な清掃・保守管理業務等による良好な施設環境の維持、利用者へのサービス向上、企画展示等施設の有効活用、安定した利用者数・利用率・利用料金収入の確保に努め、経費節約等も実施した結果、概ね良好に業務を実施した。コロナ以後、テレワーク等により対面の会議が縮小される中、周辺自治会の会議や定期的な会合等の利用促進に向けPRできるよう、次年度も引き続き適切な管理運営に努めたい。

施設名	県立のじぎく会館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県人権啓発協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

※「協会」=指定管理者である(公財)兵庫県人権啓発協会

○利用率の向上と利用料金収入の確保

- ・利用率は、平成 18 年度 34.7%→平成 19 年度 36.8%→平成 20 年度 34.0%→平成 21 年度 32.2%→平成 22 年度 18%(耐震改修のため 10 ヶ月閉館)→平成 23 年度 28%→平成 24 年度 32.1%→平成 25 年度 31.6%→平成 26 年度 32.9%→平成 27 年度 36.5%→平成 28 年度 33.5%→平成 29 年度 34.2%→平成 30 年度 36.3%→令和元年度 34.0%→令和2年度 32.6%→令和3年度 29.6%→令和 4 年度 29.5%→令和5年度 31.2%となっており、前年度より利用率は増えてきている。今後も、Wi-Fi の活用を PR し、利用率の維持に努めたい。
- ・利用料金収入金額についても、協会の営業努力により、平成 16 年度 8 百万円に対し、平成 23 年度以降は 10 ～14 百万円(23 年度 10,243 千円→24 年度 12,366 千円→25 年度 12,449 千円→26 年度 12,718 千円→27 年度 14,491 千円→28 年度 12,847 千円→29 年度 13,359 千円→30 年度 14,241 千円→令和元年度 14,843 千円→令和2年度 15,992 千円→令和3年度 13,116 千円→令和4年度 13,238 千円→令和5年度 14,550 千円)と安定した収入の確保が図られていると評価できる。

○効率的な維持管理と経費削減

- ・施設維持管理費については、平成 17 年度 33,308 千円→平成 18 年度 30,778 千円→平成 19 年度 28,157 千円→平成 20 年度 25,835 千円→平成 21 年度 24,827 千円→平成 22 年度 18,340 千円(うち 15,637 千円は耐震改修に伴う事務所移転経費等)→平成 23 年度 19,304 千円→平成 24 年度 16,861 千円→平成 25 年度 16,811 千円→平成 26 年度 16,426 千円→27 年度 18,593 千円(ロビーチェア一等を更新)→28 年度 16,781 千円→29 年度 16,653 千円→30 年度 17,725 千円→令和元年度 17,244 千円→令和2年度 18,719 千円→令和3年度 16,106 千円→令和4年度 23,225 千円(うち停電による修繕費 5,266 千円、燃料費高騰による光熱水費 5,143 千円)→令和5年度 18,640 千円と概ね着実な削減が図られていると評価できる。

○サービスの向上

- ・平成 22 年度の耐震改修工事に伴う施設・設備のリニューアルもあり、平成 24 年度以降毎年実施している利用者アンケートの結果でも、施設・設備や職員の対応等に対する不満は少なく、日常的に利用者へ丁寧な対応を心がけているものと評価できる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○利用率の向上と利用料金収入の確保

- ・今後とも料金の安さ等を十分にPRし利用促進を図り、利用率の向上と安定的収入の確保を図るよう指導していく。

○効率的な維持管理と経費削減

- ・今後とも総合管理委託等について安価かつ良質な外部委託業務の執行を確保するとともに、光熱水費については常に節約に心がけるなど維持管理費の効率的執行を図るよう指導していく。

○サービスの向上

- ・今後とも利用者の声を踏まえ、一層のサービス向上を図るよう指導していく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	A	A	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	神戸生活創造センター	現指定管理期間	令和4年度～6年度(3年間)
指定管理者	大阪ガスビジネスクリエイト株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃の実施	日常的(開館前、施設利用後の随時)に施設及び設備・備品類の点検と清掃を実施した。	◎	◎
	設備保守管理	設備や備品等の日々点検を行い、不具合の早期発見に努める	施設利用後のチェック時に、部屋の状態や備品状況についても確認をした。 懸案である夏季のキッチンや備品庫の湿度管理には、特に注意を払い点検に努めた。	◎	◎
	植栽管理	—	—	—	—
	警備	日常巡回等	開館中は、書架整理時や、施設利用後に安全確認や、不審な点がないかチェックしている。 閉館中は、庁舎機械警備による警備を実施した。	◎	◎
	小規模修繕	設備や備品等の日々点検を行い、不具合の早期発見に努める	施設利用後に、部屋の状態や備品状況についても確認を行い、不具合の早期発見に努め、自主修繕を行った。(キッチン床面の軽微な段差解消)	◎	◎
	法定点検の実施	—	—	—	—

運営業務	開館日・開館時間等	<p>「設置及び管理に関する条例」及び協定等に定める内容を遵守し、管理運営を行う。</p> <p>開館時間 月曜日～土曜日 9:00～21:00 日曜日・祝日 9:00～17:30</p> <p>休館日(管理規則第2条の規定による) 毎月第3水曜日、年末年始(最大12月29日～1月3日)</p>	<p>条例に基づく開館時間等を遵守し、自然災害その他の事由による変更の場合は即時に所管課と共有・協議して適切に運営している。</p> <p>【開館時間】 月～土9時～21時 日・祝9時～17時30分</p> <p>【休館】 毎月第3水曜日、 12月29日～1月3日</p> <p>【臨時休館】 8月15日(台風接近のため)</p> <p>【部分休館】 6月2日(17時閉館) 8月14日(18時閉館) いずれも台風接近のため</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<p>設管条例及び管理規則を遵守し、かつ利用者にとって理解しやすく、安心して利用いただけるよう、平等で公平かつ公正な管理運営を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運用規則及び利用規則を遵守、柔軟で、全ての利用者に対し、公平で快適な利用環境を提供した。 ・利用者の利便性と公平性を担保した、有料施設の利用料納付期日の変更(利用日当日払い)を県と協議の上導入した。 ・10月より、兵庫県公共施設予約システムを導入。センターの運営実態と公平性を鑑みた運用ルールを構築し、大きなトラブルもなくスムーズな導入を成功させた。 ・公の施設を運営する職員に必要な知識・スキルを習得するため、人権研修、ハラスメント防止研修、個人情報保護教育などの各種研修を実施した。 	◎	◎

	<p>各種事業・プログラムの 実施状況</p>	<p>① 生活情報の収集・発信</p> <p>② 活動支援事業・交流事業</p> <p>③ 学習機会の提供</p> <p>④ 協働事業</p> <p>⑤ 自主事業</p>	<p>事業計画書に基づく活動支援、 協働事業等を実施。 (下記は主な取組例)</p> <p>①生活情報の収集・発信 ・図書コーナー実績(前年比) 貸出 29,980 冊(95.0%) 利用者数 74,728 名(94.9%) ・図書の寄贈(トモヤ文庫) 「紙芝居・紙芝居舞台」を 提案するなど、貸出促進 に努めた。 ・『PiPiN』(ピピン)の発行 毎月発行 3,500～4,000 部 各種講座・イベント情報 などの掲載</p> <p>②活動支援・交流事業 ・グループセミナー 年間 20 事業 266 名参加 『かん字で遊ぼう』 『ハンバーガーセットを 作ってみませんか?』等 ・生活創造フェスタ センター登録グループの活 動支援・交流を目的にした大 型イベント。コロナ禍におい て中断していたが 5 年ぶりに 開催。900 名参加。</p> <p>③学習機会の提供 『交通から見た神戸のうつりか わり』 地域史を独自の視点で紹介 するセミナー。6 回開催、249 名参加。 『子育てサロン Fam』 登録グループ等を講師に迎 えた創作ワークショップ。4 回 開催、69 名参加。</p> <p>④協働事業 『Kobe Art Cider』 長田区と海外のガラス工芸 作家による展示会。 11/5～11/30 開催、346 名来 場。 『小中学生わくわくプロジェクト』</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>
--	-----------------------------	---	--	----------	----------

			<p>地域の子どもたちの居場所づくり支援団体と共同した e スポーツの大会。1 回開催、40 名参加。</p> <p>⑤自主事業 『しんながた Hello Market』 地域と心のにぎわい創出実現を目的にした、新規のマーケットイベント。地元の丸五市場とも連携し、8/19～20 の 2 日間で計 1500 名来場。 『子育て広場 きらきら』 就学前の子どもとその保護者が、歌や手遊びなどのプログラムで交流する人気事業。11 回開催、356 名参加。</p>		
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者ニーズを的確に把握するため、多方面から利用者の声を獲得する機会を設ける。	<p>対象者:利用者 実施期間:2月1日～22日 回答数:258 評価方式: 4点=たいへん満足 3点=ほぼ満足 2点=やや不満 1点=大いに不満 総合評価:3.4</p> <p>・内訳 情報提供:3.2 利用申請・手続き:3.3 利用条件:3.4 設置条件:3.4 利用可能時間:3.4 利用料金:3.0 施設/設備:3.2 サービス:3.3 スタッフ:3.4</p> <p>この他、通年、図書コーナーにご意見箱を設置し、運用した。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	130,000 名	123,187 名(前年+1,070 名)	○	○
	施設稼働率	<p>[R5 年度目標]</p> <p>・有料施設計(ギャラリー除く) ➢60.0%</p> <p>・ギャラリー➢85.0%</p>	<p>[R5 年度実績]</p> <p>・有料施設計(ギャラリー除く) ➢47.8% (48.6%)</p> <p>・ギャラリー➢77.5% (74.7%)</p> <p>※()内は対前年実績値</p>	△	△

収支状況	収支計画と実績	[計画(税込:円)] 収入:45,947,000 支出:45,947,000	収入は計画を下回ったが、支出抑制により適正な収支水準となった。 [実績(税込:円)] 収入:43,905,673 支出:45,692,710	○	○
	経費節減に向けた取組	・適正運用(照明、空調) ・日常点検(設備・備品)による予防保全	外気温を考慮した効率的な空調の運用などに取り組んだものの、電気代の高騰により計画比で+6%上昇。 各種印刷物の発行部数見直しや、消耗品の調達方法見直しなど、経費削減などに努めた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	・迅速に情報共有、かつ関係各所と協議し、的確に対応する。	・利用者からの意見や苦情については、詳細な内容把握に努め、所管部署、本社管理部門と共有の上、連携して対応に当たった。	◎	◎
	危機管理体制の確保	・危機管理マニュアル及び緊急連絡網、緊急体制の整備 ・避難・防災訓練の実施	・危機管理マニュアルを整備(随時更新)し、事故発生時においても速やかな連絡を実施した。 ・庁舎主催の消防訓練へ参加した他、緊急時対応のフローを掲示し、メンバーへの周知を図った。	◎	◎

<p>県・関係機関との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・神戸・阪神間における県及び関係機関とのネットワークの継続 ・新長田周辺の施設や関係機関、各種団体との連携体制の構築 ・運営委員会の開催 	<p>県や市を始め、様々な連携先と協力して活動を実践した。(下記は主な取組例)</p> <p>①神戸・阪神間における県及び関係機関 『布の絵本とおもちゃで遊ぼう』(尼崎市立すこやかプラザ) 『気軽にアート』(兵庫県立美術館) 『駅名妄想会議』(まちラボ) 等</p> <p>②新長田周辺の施設や機関との連携 『兵庫県認定食品販売会』(兵庫県) 『ながた にこにこマルシェ』(長田区) 『クリスマスを楽しもう♪おはなし会とワクワクあそび』(新長田図書館) 等</p> <p>③運営方針検討委員会 実施日:令和6年2月7日 委員:大学教授等の有識者3名、兵庫県職員2名 委員会の提言を実施計画の一部へと反映した。</p>	◎	○
<p>業務の再委託の状況</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>	<p>—</p>

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- 5月に新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、有料施設利用者数を中心に増加傾向となり、施設全体としても賑わいのある活発な1年となった。特に、事業では5年ぶりの開催となった『生活創造フェスタ』、指定管理者の独自事業として立ち上げた『しんながた Hello Market』と、2つの大型イベントを開催し、盛況であった。
- 運営面では、10月から兵庫県公共施設予約システムを導入開始。同時期にシステムを導入した、東播磨生活創造センター「かこむ」とも情報交換を行いながら、神戸生活創造センターの運営実態にあわせた運用ルールを構築し、大きなトラブルもなくスムーズな導入を成功させた。
- 登録グループへの活動支援としては、『グループセミナー』を中心に支援を行う他、『生活創造フェスタ』『健康座談会』のような登録グループの交流を促進する支援にも力を入れたが、登録グループ数は依然として減少傾向にあり、運営課題として残った。
- また、従来実施していた「運営委員会」を「運営方針検討委員会」として刷新し、センターの運営課題や、運営方針の方向性について提言を受けた。
- 上記のような運営課題や運営方針検討委員会の提言を踏まえ、次年度以降は、登録グループの活動支援の充実や、地域課題解決に向けた取組、デジタル化を念頭に置いた広報のあり方の再検討などについて、取り組んでいきたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者:神戸県民センター県民躍動室

施設名	神戸生活創造センター	現指定管理期間	令和4年度～6年度(3年間)
指定管理者	大阪ガスビジネスクリエイティブ株式会社	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

令和5年度は 12 万人以上の来館者があり、コロナ禍以前に実施していた生活創造フェスタ(登録グループの成果発表会)の再開や、しんながた Hello Market(地元店舗の出店や交流イベントの実施)などの大型イベントを実施し、多数の来場者で賑わった。また、公共施設予約システム導入においては、HP・掲示物や説明会、全登録グループ向けの通知による周知徹底を図るなど、公平性を保った丁寧な運営が行われている。

その一方で、有料施設のうち、キッチン、講座研修室の稼働率が 30%前後であり、利用料金収入が計画を下回る状況である。また、X(旧 Twitter)の更新頻度は月に一桁程度となっており、新規利用者の獲得につながる日常的な積み重ねが不足している印象である。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

常駐3名という管理体制を確保いただいているが、業務内容の見直しを随時行い、窓口業務の簡略化や地域担当や生活創造コーディネーターが積極的に地域に出て、ニーズや旬な話題に触れる機会を増やすことができれば、登録グループの新規獲得や地域などのニーズに沿った事業を展開することができる。また、X(旧 Twitter)は、イベントの告知だけでなく、日常の利用状況やイベントの実施報告など、センターを身近に感じられる内容を数多く発信することで、新規利用者の獲得につながるのではないかと考える。

そして、R3 公募時の事業計画書のうち未実施の提案の検証など、更なる利用者満足度の向上に努める必要がある(登録グループとのオンライン面談、情報発信用にセンター公式 LINE アカウントの導入、企業に向けたグループ登録のアプローチなど)。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	A		—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	東播磨生活創造センター	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	(特非)シミズシーズ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	<p>[館内利用エリアの清掃] 館内・利用エリアにおける清掃を1日1回実施する。</p>	<p>[開館中(12:00-13:00)] 有料施設・無料施設の利用環境の点検、清掃を行った。</p> <p>[閉館後] 各施設の戸締まり、忘れ物確認、点検を実施した。</p> <p>職員による環境点検を1日1回行った。利用者も含め清掃を行い、安全に利用できる施設整備を実施した。</p> <p>[感染予防の取組] 職員だけでなく利用者自身が日常から除菌・清掃できるよう掃除道具一式を配置し、利用者の清掃・感染症予防への協力を促している。</p>	◎	◎
	設備保守管理	<p>[設備確認・安全巡視] 館内及び利用エリアにおける劣化や危険な箇所がないか等、日常的に安全巡視する。利用者が、安全かつ快適に利用できるための調査及び利用空間の整備として、適正な管理と保守点検を行う。</p>	<p>[年間] 施設利用者を対象とした利用状況アンケートを実施し、利用状況を調査した(年1回)</p> <p>[随時] 1) 窓口での利用者の声の聞き取りを実施した。 2) 連絡ノートを活用した利用コメントの確認を行い日々の変化を確認した。 3) 設備、備品等における利用状況の確認と定期点検を実施した。</p> <p>指定管理者として、利用者との連絡手段を工夫し、常時利用者が安全に利用できる維持管理を継続して行なった。</p>	◎	◎

			利用者の声や安全点検に常に気を配り、県との定例会議などにおいて、速やかな情報共有と報告を行い保守管理の徹底に努めた。また例年同様、夏季の空調温度管理を県と協議し向上させた。近年の気候変動を踏まえ、利用者の安全と快適性を第一に対応した。		
	植栽管理	—	—	—	—
	警備	[連絡及び対応体制] 館内の安全巡視、緊急時の連絡及び対応体制を整備する。	[連絡及び対応体制] 緊急時における相談・確認・報告の連絡体制と有事の対応体制を整備した。 [取組と警備対応] 1)開館中は安全巡視、定期パトロールを行なった。 2)緊急時や災害時などを想定し曜日ごとに運営責任者を常駐することにした。 3)避難経路確認や防火扉が緊急時作動するよう施設レイアウトを徹底した。 4)運営スタッフを対象に、緊急マニュアルを更新し共有を行なった。 館内パトロールに加え、消火機器の点検や避難経路の確保、防火シャッターや消火栓が機能するか確認を行なった。緊急時におけるマニュアルを更新し、職員対象に共有を行なった。庁舎管理者との情報共有を行い、安全な施設運営に努めた。	◎	◎
	小規模修繕	付帯備品及び施設備品の軽微な修繕と整理を行なった。	[備品修繕] 講座研修室机、椅子、マイクスタンド、譜面台など軽微な修繕、備品修理を実施した。利用者の寄贈による代替品の提供などにより設置備品の調整を行なった。	◎	◎
	法定点検の実施	—	—	—	—

運営業務	開館日・開館時間等	<p>[開館日] 1月2日～12月30日 休館日(毎月第3日曜日)</p> <p>[開館時間] 平日・土/9時00分～21時00分 日・祝/9時00分～17時30分</p>	<p>[基礎運営] 開館日・開館時間については、県と協議し社会的意義や地域の役割を踏まえ、可能な限り利用者の実態と需要に即して対応。月毎の休館日は職員研修を実施している。年末年始については、県と協議の上、休館や開館時間の短縮を行なった。</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	<p>[運営] 法令遵守した公平公正な運営</p> <p>[情報公開] 情報公開による開かれた運営</p>	<p>[法令遵守] 関係法令や条例を順守し指定管理運営に努めた。施設予約においては、抽選方式を取り入れるなど、公平・公正な施設利用ができるよう工夫した。</p> <p>[情報公開] 規則を遵守し、利用者案内及びお知らせとして情報開示を行なった。窓口案内、館内掲示、ホームページ、SNSによる手段を活用。全ての利用者に対し公平な情報公開に努めた。</p> <p>[その他/公平な運営] 幅広い年齢層の利用者を応対できるよう、「窓口・電話・ホームページ」の申込方法を設けることで、利用者に対し施設申込機会を公平に提供することを心掛けた。</p>	◎	◎

	<p>各種事業・プログラムの 実施状況</p>	<p>[指定管理運営事業]</p> <p>1)貸館運営 2)情報コーナーの運営 3)グループ活動支援の運営 4)学習機会の提供の運営 5)協働・自主事業</p>	<p>1)[情報コーナーの運営] 情報誌の発行 年4回 / 28,585部 (前年実績 13,700部 前年差 △14,885部) ※イベント情報誌秋号の2回分発行(10,000部) 夏号追加分により発行部数が増加</p> <p>ホームページでの情報提供 447件 (前年実績 143件 前年差 △304件) チラシ配架件数 1,740件 図書等の貸出件数 1,295件 寄贈本数 712冊</p> <p>2)[グループ活動支援] kaco-LAB.の登録会員 334団体(個人含む) (前年実績 326団体 前年差 △8団体)</p> <p>【内訳】 オープン会員(無料)213団体 スタンダード会員(有料)116団体 地域応援会員(企業)5団体</p> <p>相談件数 69,910件 (前年実績 76,111件 前年差 ▲6,201件) コーディネート件数 67件 (前年実績 73件 前年差 ▲6件)</p> <p>多目的パフォーマンス スペース運営 222回 (前年実績 196回 前年差△26回) 交流事業の実施 253回 (前年実績 226回 前年差△27回)</p> <p>kaco-LAB.フェス 2023 開催 来場者名 1,903名 (出展 89団体)</p> <p>[学習機会の提供業務] 講座・セミナー等の開催 60回/1,241名 (前年実績 73回/956名 前年差▲13回/△285名) ※kaco-LAB.フェス来場者、振り返り会の</p>	◎	◎
--	-----------------------------	--	---	---	---

			<p>参加者除く</p> <p>地域リーダーの人材育成事業 174 回/622 名 (前年実績 13 回/92 名 前年差△161 回/△530 名) ※フラワーパートナーの定期活動による回数増加。水やり等の活動回数の増加により延べ人数が増えた。</p> <p>ボランティアの登録 19 名 (前年実績 22 名 前年差▲3 名)</p> <p>[かこむ審議会] 年 1 回実施 審議会では、行政(自治体)や企業、NPO、教育機関、近隣施設などセクターの垣根を越えた幅広い視点から事例共有、助言を頂き施設運営に役立てた。</p> <p>[協働事業の企画・実施] 多目的パフォーマンススペースを活用した会場活用の協力として、シニア交流サロンを行った。</p> <p>地元コミュニティラジオとの協働 38 回(前年実績 41 回 前年差▲3 回)</p> <p>トライやるウィーク、インターン、職業訓練等の受入 16 回/22 名 (前年実績 20 回/37 名 前年差▲4 回/▲15 名)</p> <p>[自主事業の企画・実施] 活動支援講座・セミナーの開催 8 回/114 名</p> <p>活動やイベントの実施サポート イベント受付代行 6 件 チラシ発送サポート 32 件 会場設営サポート 6 件</p>	
--	--	--	--	--

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	<p>[満足度アンケート調査] かこむ利用者を対象にした満足度アンケート調査を実施する(年1回)</p>	<p>[調査期間] 令和5年11月20日 ～令和5年12月28日 (※)休館日の第3日曜日を除く 開館日数:30日間</p> <p>[回収枚数] 800枚 (前年度実績 984枚/前年差▲184枚)</p> <p>[調査結果] 総合評価 非常に満足、満足 97.3%</p> <p>施設の清掃に関する満足度 非常に満足、満足 93.5%</p> <p>スタッフ対応に関する満足度 非常に親切、親切 93.8%</p> <p>利用後の関係に関する調査 挨拶する程度の 知り合いが増えた 6.8% よく話す 知り合いが増えた 9.3% 一緒に活動する友達 知り合いが増えた 28.8%</p> <p>その他、かこむ主催事業について、施設運営についてなどの調査項目を設けて、事業に関するアンケートにも取り組んだ。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	—	<p>[実績] 195,275人 (令和4年度:180,311人)</p> <p>有料・無料施設共に利用人数は安定し、またイベントスペースの利用も回復。令和4年度より14,964人の利用者数増加となった。</p>	◎	◎
	施設稼働率	<p>[施設稼働率(有料施設)] 目標 70.0%</p>	<p>[実績] 69.5% (令和4年度:70.1%) 全体としては前年度比で▲0.6%減となったものの、長年課題であった音楽スタジオの年間稼働率が50%を上回るなど、施設利用者獲得のための運営努力が定量的な成果につながった。</p>	○	○

収支状況	収支計画と実績	<p>[収支計画]</p> <p>[収入]</p> <p>合計 :37,754 千円</p> <p>指定管理料 :26,154 千円</p> <p>補助金 : 800 千円</p> <p>利用料収入 : 9,300 千円</p> <p>自主事業収入: 1,500 千円</p> <p>[支出]</p> <p>合計 :37,754 千円</p> <p>人件費 :27,949 千円</p> <p>事業費 : 1,780 千円</p> <p>維持管理費 : 3,270 千円</p> <p>事務費 : 1,650 千円</p> <p>消費税 : 3,105 千円</p>	<p>[実績]</p> <p>[収入]</p> <p>合計 :40,297 千円</p> <p>指定管理料 :26,445 千円</p> <p>補助金 : 451 千円</p> <p>利用料収入 : 9,455 千円</p> <p>自主事業収入: 1,024 千円</p> <p>法人負担 : 2,922 千円</p> <p>[支出]</p> <p>合計 :40,297 千円</p> <p>人件費 :28,156 千円</p> <p>事業費 : 2,229 千円</p> <p>維持管理費 : 4,119 千円</p> <p>事務費 : 2,774 千円</p> <p>消費税 : 3,019 千円</p>	◎	○
	経費節減に向けた取組	<p>[施設備品の寄贈]</p> <p>施設備品など、利用者の善意による寄贈を受け付ける。</p> <p>[破損・故障備品の修理]</p> <p>破損・故障備品の部品を活用し本体修理を行う。安全性を担保した上で、再利用する。</p>	<p>[寄贈]</p> <p>利用者等による備品・消耗品の寄贈の受け入れを行った。</p> <p>[備品の修理]</p> <p>ボランティアによる施設修繕、管理を実施した。</p> <p>[その他]</p> <p>1)施設点検時に空調の確認の徹底</p> <p>2)外光に合わせた照明管理による電力削減</p>	○	○

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	<p>[連絡・研修体制] 月毎の職員研修で苦情、利用者の声を共有する。庁舎に関する項目は所轄課へ報告し連携対応する。</p> <p>[利用者アンケートから分析] アンケート集計より利用者の声を分析し、対応改善できるよう情報収集する。</p>	<p>[年間取組] 施設利用者に向けた利用状況アンケート集計を年1回実施。</p> <p>[日次の取組] 1)窓口での利用者の声の聞き取りを実施。 2)連絡ノートを活用した利用コメントの確認を実施。 3)苦情や要望などの利用者の声については、情報共有ツールを活用し情報を蓄積、管理。</p> <p>指定管理者として解決できる苦情・要望・利用者の声については、速やかに対応、対策を講じた。</p> <p>苦情、利用者の声及び利用者対応はデータに集約。定例会での事業報告として県と相談、検討を行った上、内部共有し、迅速な対応に努めた。利用規則や設備に関しての声も同様に、県と協議、検討する対応を実施した。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	<p>[共有・研修体制] 月毎の職員研修で安全管理に関する情報や対応マニュアルを共有する。庁舎に関する項目は県へ報告し連携対応する。</p> <p>[総合庁舎との連携] 防犯や災害・緊急時における総合訓練に参加し、有事の際に連携できるよう事前に対策を講じる。</p> <p>[館内点検] 開館時間中において、防火シャッター下・消化設備周辺には物を配置していないか館内点検を行う。</p>	<p>[実績] 1)開館中は安全巡視、定期パトロールを実施。 2)運営スタッフ内における緊急マニュアルの共有を実施。 3)管理責任者、副責任者は庁内消防訓練に参加。 4)施設内における災害事故対策マニュアルを設置。職員研修で避難経路など誘導手順の確認を行なった。</p> <p>緊急マニュアルを更新し、迅速に対応できるよう危機管理体制を整えている。施設責任者、副責任者を対象に消防訓練への参加を必須とし避難経路の確認、消火設備の点検を行い、防火シャッター下・消化設備周辺には物を配置しないことを徹底し、県及び総合庁舎と連携し万全の処置を講じた。</p>	◎	◎

	<p>県・関係機関との連携</p>	<p>[県との連携] 県との連絡会として月毎に定例会(年間12回)を開催する。</p> <p>[関係機関との連携] 東播磨地域の教育機関、公共施設指定管理者(企業)、連絡協議会等の有識者を迎え、施設運営に関する意見交換の機会として審議会(年1回)を開催する。</p>	<p>[県との連携] 定例会(12回実施)の開催。 県と月1回の定例会において、運営の意見交換及び情報共有、検討事項などの協議を実施した。</p> <p>[関係機関との連携] 審議会では、行政(自治体)や企業、NPO、教育機関、近隣施設などセクターの垣根を越えた幅広い視点から事例共有、助言を頂き施設運営に役立てた。</p>	◎	◎
	<p>業務の再委託の状況</p>	<p>[再委託先との連携] 運営を遂行するに当たり、委託先や委託内容を精査し、最低限必要な業務内容を委託する</p>	<p>[再委託契約] 2件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設予約管理システム (株式会社エイ・エス・ビー) ・ホームページの保守管理 (NPO法人のためのIT支援事務所 ht) 	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

物価高騰など厳しい世情である中、限られた指定管理料で創意工夫しながら安心安全に施設を運営することができたと振り返っています。15年目となる施設環境においては、設備の老朽化が目立ち破損や故障が多く見受けられた年度でもありました。利用者からの備品の寄贈や運営ボランティアによる設備修繕など、県民の皆さんを巻き込み「みんなでつくる」施設運営となりました。

指定管理期間4年目となる来年度も、新しい価値観や人、物、情報の出会いなど「つながる施設」として機能をもちつつ、さまざまな世代、ジャンルの方と「一緒につくる」という市民参加型の運営を大切にしていきたいと考えています。引き続き、県民の生活創造活動の支援に努めます。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 東播磨県民局県民躍動室県民課

施設名	東播磨生活創造センター	現指定管理期間	令和3年度～8年度(5年間)
指定管理者	特定非営利活動法人シミズシーズ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 施設全体の有料施設稼働率は前年度比で微減したものの、前回指定管理期間よりも高い水準を維持しており、音楽スタジオの稼働率が過去5年で最高値を記録するなど、情報発信等を通じた利用者の獲得、掘り起こしの成果が認められる。
- 公共施設予約システムの導入や利用料金の改定に際して、利用者へ適切かつ丁寧に説明を行い、大きな混乱なく移行を実現した。施設利用者満足度アンケートでは 93.8%が「非常に親切」又は「親切」と回答しており、円滑な窓口運営を実現している。
- 多様なボランティア活用や「トライやるウィーク」などの受入れを継続して行い、協働による運営の効率化と地域活動の活性化を実現している。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和3年、4年度と同様に、光熱費や人件費の高騰から法人負担が発生しており、業務効率化等による支出削減に継続して取り組む必要がある。

県としては、定例会(月1回)や日常的な指定管理者とのコミュニケーションを通じ、引き続き適切に指導、助言を行うとともに、利用者サービス向上のため、指定管理者に対して利用者アンケート等の有効活用及び積極的な業務改善提案を求めていく。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	A	S		

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立丹波の森公苑	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物内の日常清掃、定期清掃(床・窓ガラス)を行い、美観を保つ。	日常清掃は毎日実施し、定期清掃(床ワックスがけ、窓ガラス)は年 4 回実施、蜘蛛の巣とりは年 2 回実施した。	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降・電話設備及びホール設備等の保守並びに空気環境・水質・害虫等の衛生管理を行う。	日常点検は週 2 回程度実施し、専門的な保守点検は月 1 回実施した。	◎	◎
	植栽管理	敷地内の除草・剪定、樹木管理等を行い、美観を保つ。	一部の除草は業者に委託したほか、森づくりスタッフによる里山管理、日本庭園など専門的な管理が必要な所を含め芝生広場も職員による草刈りを実施し、経費の節減に努めた。	◎	◎
	警備	時間外の安全確保のため施設全体の警備を行うとともに、大きなイベント開催時の安全確保のため駐車場管理を行う。	機械警備は、夜間休日について警備会社に委託。利用者が多い時(丹波の森フェスティバル)は、駐車場の整理を委託した	◎	◎
	小規模修繕	施設設備が適切、良好に利用できるように、修繕を行う。	日常点検、保守点検等により異常が見つかった場合、可能な限り速やかに修繕を実施した。 【実施内容】 里山スクエア改修内装追加工事、散水栓漏水修理、加圧給水ポンプ修理、里山スクエアキッチンスタジオ網戸取り付け、雨水排水改修工事ほか	◎	◎

	法定点検の実施	ビル衛生管理法に基づく特定建築物の環境衛生管理を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・空気環境 :年 6 回 ・供給水残留塩素等:週 1 回 ・供給水水質 :年 2 回 ・受水槽 :年 1 回 ・排水設備 :月 1 回 ・ねずみ・昆虫防除 :月 1 回 ・冷却塔レジオネラ菌 :年 1 回 	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	【開苑時間】 9:00～22:00 【休苑日】 月曜日 (祝日の場合翌日) 12月29日～1月3日	生活創造センターの設置及び管理に関する条例どおりに開館した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	統一的な基準により、施設の貸館業務を行う。	生活創造センターの設置及び管理に関する条例に基づき、統一的な貸館業務を実施した。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	丹波地域の全ての人々が緑豊かな自然の中で、自己を高め、グループ活動を支援できる事業を行う。	魅力ある地域づくり、地域活動の支援、生涯学習の場の提供、芸術文化活動の支援等を行った。 【指定管理業務】 ・丹波の森公苑運営委員会運営事業(R6.3.7 開催) ・「丹波の森」情報発信事業 ホームページ、フェイスブック等を随時更新 ・講座「丹波学」開催等事業 「丹波武将と徳川家康～その時、家康は丹波に何をみたのか～」をテーマに 5 回開催 ・生活創造活動支援事業 生活創造活動グループサポート事業によるイベント支援(21 回)、消費生活出前講座(13 回)、消費生活にゆーすの発行(4 回) ・展示ギャラリーの開設 写真展、絵画展など 31 件利用 ・伝統文化活性化支援事業 子どもたちのための和楽器鑑賞会を丹波地域内の小学校特別支援学校 10 校で実施 【自主事業】 ・花づくり活動支援事業 ・丹波の森フェスティバル開催 ・里山ボランティア養成事業 ・オオムラサキの舞う里山づくり ・地域高齢者大学・大学院の設置 ・丹波の森子どもミュージカル体験塾	◎	◎

			<p>の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹波の森国際音楽祭の開催 ・ホール自主事業 ・丹波の森アートフェスティバルの開催 ・丹波地域学ぶ高齢者のつどい ・トライやる・ウィーク受入 ・芸術文化団体活動支援事業 		
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者に対し、丹波の森公苑について、ハード・ソフト両面からアンケートを実施する。	<p>「森公苑利用の理由」「利用の感想」「森公苑の情報発信」等について、下記の来苑者計 281 人にアンケートを実施した。</p> <p>①ホール・会議室等有料施設利用者 ②有料施設利用の主催者 ③一般の来苑者(グループ活動コーナー、屋外利用者、丹波の森フェスティバル)</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度: 45,216 人]	<p>令和5年度の施設利用者は 70,420 人で前年比 155.7%となったが、更なる利用拡大に努める。</p> <p>(令和4年度にホール、テニスコートの利用休止があった)</p>	○	○
	施設稼働率	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度] ホール 23% 会議室 41% グラウンド 54% テニスコート 84%	<p>前年の改修工事が完了し、全体の稼働率は上昇しているが、コロナ前までの回復には至っていない状況である。</p> <p>[ホール 32%、会議室 41%、グラウンド 49%、テニスコート 91%]</p>	○	○
	収支計画と実績	<p>【収入(単位:千円)】</p> <p>利用料金収入 6,085 指定管理料 150,808 その他収入 12,320 <u>合計 169,213</u></p> <p>【支出(単位:千円)】</p> <p>人件費支出 74,306 維持管理費 88,321 事業運営費 6,586 <u>合計 169,213</u></p>	<p>【収入(単位:千円)】</p> <p>利用料金収入 10,480 指定管理料 142,905 その他収入 19,532 <u>合計 172,917</u></p> <p>【支出(単位:千円)】</p> <p>人件費支出 74,692 維持運営費 83,564 事業運営費 14,661 <u>合計 172,917</u></p>	○	○

収支状況	経費節減に向けた取組	最小の経費で最大の効果をもたせるよう努める。	経費節減に向けた取組の継続を毎月2回開催する幹部会議で徹底している。また、ボランティアや職員が協働で草刈りや大規模な環境整備を年数回実施した他、日常的にも職員が芝刈りや除草剤の散布などを実施し、業者発注の回数を縮減した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情・要望については、真摯に話を聞き、調査対応に当たる。	<p>来苑者、利用者から寄せられる苦情、要望については、可能な範囲で速やかに対応している。</p> <p>また、投書箱やアンケートに自由意見や要望を記入できる欄も設けている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの利用時間を考えて欲しい。 →屋外トイレをR6に設置予定 ・グラウンドの整備をまめにしてほしい。 →管理嘱託員より日常整備を行っているが、大会前には重点的に整備を行う。 ・自由に遊べる遊具を設置して欲しい。 →森づくり専門員により木製の小型遊具の製作やバドミントンなどの小型遊具を配置している。 ・地元自治会、近隣住民からの溝清掃、草刈、樹木伐採等の要望 →職員で対応できるものは即日対応し、外部委託が必要なものもできるだけ速やかに発注している 	◎	◎
	危機管理体制の確保	「丹波の森公苑災害対応マニュアル」「丹波の森公苑消防計画」により対応する。	消防及び避難訓練を年2回実施。	◎	◎
	県・関係機関との連携	県・関係機関と連絡を密にし、双方最新の情報を得るよう対処する。	所管課とは、電話・メールにより頻繁に連絡を取っている。	◎	◎

	業務の再委託の状況	効率性、合理性等の観点から専門的業務を外部に委託する。	設備保守管理 清掃 ホール運営 ホール舞台機構設備保守 機械警備 自家用電気工作物保安管理 電話交換設備保守 エレベーター保守 障害者用昇降設備保守 自動ドア保守 コンピュータネットワーク保守 コンピュータセキュリティ保守 廃棄物処分 除草・樹木伐採	◎	◎
--	-----------	-----------------------------	--	---	---

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

地元自治体と地域住民が一体となって、丹波地域づくりの共通理念である「丹波の森構想」を実現するための施設として、丹波の地域づくり、人づくりを推進する事業を展開できている。

協会独自のアクションプランを作成し、地域への普及啓発に努めていく。誰もが利用しやすい地域に開かれた施設となるよう、幅広い世代が取り組む多様な分野の学習、交流、地域づくり等の活動を支援し、更なる利用者増に取り組む。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 県民躍動課

施設名	兵庫県立丹波の森公苑	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人 兵庫丹波の森協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 各項目において、事業計画に基づき、適切に業務が実施されている。
- 施設の管理面では、ホール棟の空調改修などの改修工事を適切に実施したほか、そのような状況下においても、県民が快適に施設を利用できるように事業の実施・施設運営を行った点について、評価ができる。
- 利用者アンケートにおいても、おおむね高い評価をいただいております、その面からも施設の維持管理状態や、利用者へのサービス提供は良好であると考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

多種多様な施設を併せ持つという丹波の森公苑の特性を生かし、刻々と変化する社会情勢を機敏に捉え、利用者ニーズを的確に把握することにより個別施設の稼働率を上げるとともに、幅広い世代の学び、活動、交流の拠点施設としての魅力を更に高める事業展開をお願いしたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	嬉野台生涯教育センター	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	利用者に快適な環境を提供するため、点検及び清掃を徹底する。	委託業者により日常清掃(館内、館外)、定期清掃(ワックス掛け等)作業を実施し、快適な環境維持に努めた。	◎	◎
	設備保守管理	利用者の安全確保のため、施設整備及び設備保守を行い、維持管理に努める。	委託業者により、浄化槽、空調、消防設備等について、施設利用に支障のないよう定期点検を実施した。	◎	◎
	植栽管理	敷地内の樹木の管理及び雑草等の管理を適切に行う。	業者による剪定及び清掃職員による雑草駆除、職員による草刈りを複数回実施した。	◎	◎
	警備	利用者の安全確保のため、施設内の巡視や施錠の徹底を行う。	職員による巡視に加え、館内出入口に機械警備を取り入れ、利用者の安全確保に取り組んでいる。	◎	◎
	小規模修繕	利用者の利便性・安全性・快適性を確保するため、現状の把握及び迅速な対応に努める	玄関前の点字タイル修繕や青少年宿泊研修棟の電気設備工事を実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	浄化槽 11 条検査 年 1 回 簡易専用水道検査 年 1 回 消防設備点検 年 2 回 防火対象物点検 年 1 回	計画通りに実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	・休館日 12月30日～1月2日 ・開館時間 午前9時～午後9時	新指定管理者への引継ぎ等のため、3/1～3/31まで休館した。	◎	○
	公共性・公平性の確保	県民に対して、公平に利用いただくため、受付業務の透明化に努める。	パンフレットを更新し広報活動を行うとともに、誰にでも公平で分かりやすいきめ細やかな対応を心掛けている。	◎	◎

	<p>各種事業・プログラムの実施状況</p>	<p>【指定管理業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしの春のフェスティバル ・HAPセミナー・講習会 ・野外活動指導者講座 ・兵庫教育大学との連携による生涯学習指導者育成講座 ・全県野外フォーラム <p>【自主事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うれしの学園生涯大学(4年制、大学院) ・うれしの台ユースセミナー ・HAP活動支援事業 	<p>HAP セミナー・講習会のうち HAP ファシリテーター養成講習会については、新指定管理者への引継ぎの関係で中止とした。その他については、計画通り実施した。</p>	◎	○																																								
	<p>利用者満足度調査結果(アンケート調査)</p>	<p>利用者へアンケートを実施し、利用者満足度を調査することにより、事業計画や施設運営に役立てる。</p>	<p>実施期間: 令和5年11月1日～令和6年1月31日</p> <p>【活動内容の集計結果】</p> <p>満足 66.2%</p> <p>やや満足 25.4%</p> <p>やや不満 0%</p> <p>不満 0%</p> <p>回答なし 8.4%</p>	○	○																																								
<p>利用状況</p>	<p>利用者数</p>	<p>利用者数、施設稼働率の増加に努める。</p> <p>[前年度: 98,251 人]</p> <p>【内訳】(人)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>本館研修室等</td><td>14,429</td></tr> <tr><td>講堂・視聴覚室</td><td>9,958</td></tr> <tr><td>体育館</td><td>13,427</td></tr> <tr><td>スポーツ広場</td><td>10,728</td></tr> <tr><td>テニスコート</td><td>3,560</td></tr> <tr><td>体験学習棟</td><td>3,951</td></tr> <tr><td>キャンプ場</td><td>10,695</td></tr> <tr><td>生活創造プラザ</td><td>11,190</td></tr> <tr><td>青少年宿泊棟</td><td>16,593</td></tr> <tr><td>成人宿泊棟</td><td>3,720</td></tr> </table>	本館研修室等	14,429	講堂・視聴覚室	9,958	体育館	13,427	スポーツ広場	10,728	テニスコート	3,560	体験学習棟	3,951	キャンプ場	10,695	生活創造プラザ	11,190	青少年宿泊棟	16,593	成人宿泊棟	3,720	<p>R5年度 130,787 人</p> <p>【内訳】(人)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr><td>本館研修室等</td><td>19,332</td></tr> <tr><td>講堂・視聴覚室</td><td>15,758</td></tr> <tr><td>体育館</td><td>15,247</td></tr> <tr><td>スポーツ広場</td><td>13,735</td></tr> <tr><td>テニスコート</td><td>3,744</td></tr> <tr><td>体験学習棟</td><td>6,037</td></tr> <tr><td>キャンプ場</td><td>15,244</td></tr> <tr><td>生活創造プラザ</td><td>9,390</td></tr> <tr><td>青少年宿泊棟</td><td>27,021</td></tr> <tr><td>成人宿泊棟</td><td>5,279</td></tr> </table>	本館研修室等	19,332	講堂・視聴覚室	15,758	体育館	15,247	スポーツ広場	13,735	テニスコート	3,744	体験学習棟	6,037	キャンプ場	15,244	生活創造プラザ	9,390	青少年宿泊棟	27,021	成人宿泊棟	5,279	○	○
本館研修室等	14,429																																												
講堂・視聴覚室	9,958																																												
体育館	13,427																																												
スポーツ広場	10,728																																												
テニスコート	3,560																																												
体験学習棟	3,951																																												
キャンプ場	10,695																																												
生活創造プラザ	11,190																																												
青少年宿泊棟	16,593																																												
成人宿泊棟	3,720																																												
本館研修室等	19,332																																												
講堂・視聴覚室	15,758																																												
体育館	15,247																																												
スポーツ広場	13,735																																												
テニスコート	3,744																																												
体験学習棟	6,037																																												
キャンプ場	15,244																																												
生活創造プラザ	9,390																																												
青少年宿泊棟	27,021																																												
成人宿泊棟	5,279																																												

	施設稼働率	<p>利用者数、施設稼働率の増加に努める。</p> <p>[前年度:17.4%]</p> <p>【内訳】(%)</p> <table border="0"> <tr><td>本館研修室等</td><td>8.1</td></tr> <tr><td>講堂・視聴覚室</td><td>11.6</td></tr> <tr><td>体育館</td><td>27.3</td></tr> <tr><td>スポーツ広場</td><td>13.0</td></tr> <tr><td>テニスコート</td><td>29.3</td></tr> <tr><td>体験学習棟</td><td>11.4</td></tr> <tr><td>キャンプ場</td><td>22.2</td></tr> <tr><td>青少年宿泊棟</td><td>12.9</td></tr> <tr><td>成人宿泊棟</td><td>20.5</td></tr> </table>	本館研修室等	8.1	講堂・視聴覚室	11.6	体育館	27.3	スポーツ広場	13.0	テニスコート	29.3	体験学習棟	11.4	キャンプ場	22.2	青少年宿泊棟	12.9	成人宿泊棟	20.5	<p>R5年度 19.8%</p> <p>【内訳】(%)</p> <table border="0"> <tr><td>本館研修室等</td><td>10.5</td></tr> <tr><td>講堂・視聴覚室</td><td>18.2</td></tr> <tr><td>体育館</td><td>25.8</td></tr> <tr><td>スポーツ広場</td><td>15.2</td></tr> <tr><td>テニスコート</td><td>26.6</td></tr> <tr><td>体験学習棟</td><td>16.6</td></tr> <tr><td>キャンプ場</td><td>22.5</td></tr> <tr><td>青少年宿泊棟</td><td>18.9</td></tr> <tr><td>成人宿泊棟</td><td>23.7</td></tr> </table>	本館研修室等	10.5	講堂・視聴覚室	18.2	体育館	25.8	スポーツ広場	15.2	テニスコート	26.6	体験学習棟	16.6	キャンプ場	22.5	青少年宿泊棟	18.9	成人宿泊棟	23.7	○	○
本館研修室等	8.1																																								
講堂・視聴覚室	11.6																																								
体育館	27.3																																								
スポーツ広場	13.0																																								
テニスコート	29.3																																								
体験学習棟	11.4																																								
キャンプ場	22.2																																								
青少年宿泊棟	12.9																																								
成人宿泊棟	20.5																																								
本館研修室等	10.5																																								
講堂・視聴覚室	18.2																																								
体育館	25.8																																								
スポーツ広場	15.2																																								
テニスコート	26.6																																								
体験学習棟	16.6																																								
キャンプ場	22.5																																								
青少年宿泊棟	18.9																																								
成人宿泊棟	23.7																																								
収支状況	収支計画と実績	<p>収支計画(単位 千円)</p> <p><収入></p> <table border="0"> <tr><td>施設利用収入</td><td>15,345</td></tr> <tr><td>補助金等収入</td><td>119,160</td></tr> <tr><td colspan="2">(うち指定管理料: 95,326) 負担金収入 2,275</td></tr> <tr><td>収入計</td><td>136,780</td></tr> </table> <p><支出></p> <table border="0"> <tr><td>管理受託事業</td><td>112,996</td></tr> <tr><td>自主事業</td><td>22,552</td></tr> <tr><td>補助事業</td><td>1,232</td></tr> <tr><td>支出計</td><td>136,780</td></tr> </table>	施設利用収入	15,345	補助金等収入	119,160	(うち指定管理料: 95,326) 負担金収入 2,275		収入計	136,780	管理受託事業	112,996	自主事業	22,552	補助事業	1,232	支出計	136,780	<p>収支実績(単位 千円)</p> <p><収入></p> <table border="0"> <tr><td>施設利用収入</td><td>11,981</td></tr> <tr><td>補助金等収入</td><td>126,923</td></tr> <tr><td colspan="2">(うち指定管理料: 102,773) 寄付金 84</td></tr> <tr><td>負担金収入</td><td>1,725</td></tr> <tr><td>収入計</td><td>140,713</td></tr> </table> <p><支出></p> <table border="0"> <tr><td>管理受託事業</td><td>125,377</td></tr> <tr><td>自主事業</td><td>14,561</td></tr> <tr><td>補助事業</td><td>775</td></tr> <tr><td>支出計</td><td>140,713</td></tr> </table>	施設利用収入	11,981	補助金等収入	126,923	(うち指定管理料: 102,773) 寄付金 84		負担金収入	1,725	収入計	140,713	管理受託事業	125,377	自主事業	14,561	補助事業	775	支出計	140,713	○	○		
	施設利用収入	15,345																																							
補助金等収入	119,160																																								
(うち指定管理料: 95,326) 負担金収入 2,275																																									
収入計	136,780																																								
管理受託事業	112,996																																								
自主事業	22,552																																								
補助事業	1,232																																								
支出計	136,780																																								
施設利用収入	11,981																																								
補助金等収入	126,923																																								
(うち指定管理料: 102,773) 寄付金 84																																									
負担金収入	1,725																																								
収入計	140,713																																								
管理受託事業	125,377																																								
自主事業	14,561																																								
補助事業	775																																								
支出計	140,713																																								
	経費節減に向けた取組	経費を節減しつつ効果を得られるよう創意工夫を行う。	外部に発注する業務(工事請負や物品購入等)については必要最低限の内容とし、経費節減に努めた。	◎	◎																																				
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の個々の状況を把握し、適切な対応に努める。	<p>【要望】</p> <p>スポーツ管理棟の掃除が行き届いていない。トイレがきれいではない。</p> <p>【対応】</p> <p>清掃委託業者への指導と、月報内容の見直しを行った。</p>	○	○																																				
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアル、職員連絡網を作成するとともに、消防訓練、避難誘導訓練を行う。	計画通り、マニュアル等を作成し、消防訓練、避難誘導訓練を行った。	◎	◎																																				
	県・関係機関との連携	生涯学習の拠点施設として、各機関との連携を強化する。	教育機関や文化団体等の関係機関との連携を密にし、拠点施設としての役割に努める。	◎	◎																																				

	業務の再委託の状況	施設管理に関する業務の一部を委託する。	【再委託の内容】 ・汚水処理浄化槽維持管理業務 ・清掃業務 ・空調機器保守点検整備業務 ・自家用電気工作物保安業務及びテナント監視業務 ・一般廃棄物処理業務 ・エレベーター保守管理業務 ・消防設備点検及び保守業務 ・夜間等機械警備業務	◎	◎
--	-----------	---------------------	--	---	---

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

概ね計画通りに実施することができ、利用者の満足度も高いと考えられる。
 稼働率については、大幅に伸ばすことはできていないが、利用者数については、予約方法や自主事業のプログラムの見直し等により、増加させることができた。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 県民躍動課

施設名	嬉野台生涯教育センター	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 各項目において、おおむね事業計画に基づいて適切に業務が実施されている。
- 施設の管理・運営業務全体を通して、県民が快適に利用できるよう迅速な対応と効率的な運用が実現できた点について評価できる。
- 利用者アンケートにおいてもおおむね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和6年度からは公募による新指定管理者の運営になることを踏まえ、利用者に影響の少ないスムーズな引継ぎを行うとともに、今までの運営における成果や課題等についても情報共有するよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	—	—	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	但馬文教府	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)を行う。	日常清掃(週5日)、定期清掃(Pタイル・木床部・ワックス塗布、カーペット部洗浄、窓ガラス拭き、体育館ワックス塗布年1回)	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の電気・消防等の保守及び衛生管理を行う。	消防設備点検(年2回)、自家用電気工作物点検(毎月)、防火対象物点検(年1回)、防虫駆除(薬剤散布年2回)	◎	◎
	植栽管理	施設全体・敷地内の植栽管理を行う。	樹木剪定、草刈り等	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管理を行う。	機械警備(通年) 集客行事開催時は職員による駐車場案内・整理を実施	◎	◎
	小規模修繕	財産等について必要な修繕(大規模改修を除く)を行う。	樹木伐採除去、空調機器修繕等	◎	◎
	法定点検の実施	法律で定められた点検を実施	消防設備点検・小規模貯水槽水道定期検査	◎	◎
運 営 業 務	開館日・開館時間等	休館日(12月29日から1月3日まで)を除く9時から21時まで	新指定管理者への引継ぎ等のため、3/25～3/31まで休館した。	◎	○
	公共性・公平性の確保	正当な理由がない限り、施設を利用することを拒んではならない。また、施設を利用することについて、不当な差別的扱いを行わない。	施設利用の基準等に照らしながら、左記のとおり実行している。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・貸館事業の実施 ・生活創造・地域づくり活動の支援 ・生涯学習の支援 ・地域文化の振興 ・情報の収集と提供 	【指定管理業務】 4年生大学講座年 26 回、大学院講座年 21 回、地域公開講座開催、展示事業年 24 回開催、但馬文庫の運営、ホームページの運営 【自主事業】 2023 親子フェスタ、科学する但馬の子ども作品展、小・中学生の作文・詩集、但馬文学のつどい、但馬歴史講演会、等	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	定期的に利用者からの意見聴取や満足度等の把握を行う。	利用者アンケート調査 調査時期 令和5年11月1日～12月22日 調査内容 利用施設・目的・動機・満足度・要望等 回答数 120件 結果概要 満足度については各項目とも「大いに満足」「少し満足」「普通」がほとんどを占めており、「少し不満」が若干あったが「大変不満」はなかった。	◎	◎
利用状況	利用者数	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度:70,864人]	今年度は85,554人で、利用者数は増加した。	◎	○
	施設稼働率	利用者数、施設稼働率の増加に努める。 [前年度] 体育館:69.8% 会議室:21.2% 第1研修室:32.6% 第2研修室:14.2% ふるさと交流館:30.9% 平均:33.74%	稼働率はおおむね増加した。 体育館:75.5% 会議室:26.8% 第1研修室:36.2% 第2研修室:14.4% ふるさと交流館:37.1% 平均:38.0%	◎	○
収支状況	収支計画と実績	(収入) 利用料金収入 2,051,364円	(収入) 利用料金収入 2,437,880円	◎	○
	経費節減に向けた取組	・節電 ・簡易な修繕の直営実施 ・借上げ機器の再リース等	・節電…電化製品待機電力削減、空調の時間差起動、デマンド監視によるピークカット ・直営実施…植栽剪定・除草、除雪 ・印刷機の再リース ・ETC割引による有料道路通行料金節減	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	県民からの苦情・要望については、県民の立場に立った適切な対応を心掛けるとともに、責任をもって、迅速に処理する。	特に大きな苦情はなく、個別の要望についてはその都度対応した。	◎	◎
	危機管理体制の確保	事故、急病・けが、事件等が起こった場合に、適切かつ速やかな対応を行うため、あらかじめ事故対応マニュアルを策定する	消防計画、警備及び防災計画等のマニュアルを作成し、職員に周知するとともに、消防設備の自主点検を行った。	◎	◎

	県・関係機関との連携	県・関係機関との連絡調整を十分に行い、適切で迅速な対応を行う。	事業や施設運営上必要な連絡・報告・協議等を県や関係機関と緊密に行うとともに、関係機関の連絡先や緊急時における連絡先・方法を職員に周知している。	◎	◎
	業務の再委託の状況	施設管理に関する業務の一部を委託する。	庁舎清掃業務 庁舎機械警備業務 自家用電気工作物保安管理 消防設備点検保守 ごみ処理業務 デマンド監視業務 庁舎防虫駆除管理業務 飲料水貯水槽清掃業務 簡易専用水道定期検査業務 敷地内駐車場除雪業務	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設維持管理、運営業務については、突発的な事象も含め、適切に実施できている。周辺地域への PR 活動等を積極的に行っている。

利用状況については、ふるさと交流館について周知され、利用増加がみられるとともに、豊岡市の体育館改修工事による休館に伴い体育館の利用増加がみられた。

令和 5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部県民躍動課

施設名	但馬文教府	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 各項目において、事業計画に基づいて適切に業務が実施されている。
- ・ 施設の清掃・点検が適切に行われ、利用者の安全面に配慮した利用環境を確保できていることに加えて、施設の積極的なPRが、利用者数の確保につながっている。
- ・ 利用者アンケートにおいてもおおむね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和6年度からは公募による新指定管理者の運営になることを踏まえ、利用者に影響の少ないスムーズな引継ぎを行うとともに、今までの運営における成果や課題等についても情報共有するよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	—	—	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	西播磨文化会館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・ 定期清掃(床・窓ガラスなど)	業務委託により、フロアワックス、 窓ガラス清掃、日常清掃を 確実に実施できた。	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・ 消防・昇降設備等の運転・保守 並びに水質・防虫等の衛生管 理を行う。	自家用電気設備月1回点検、消 防設備機器点検及び修繕を行 った。	◎	◎
	植栽管理	樹木、芝生、草花の剪定、病害 虫防除等	職員作業による芝生管理(散 水・芝刈り)樹木剪定を実施し 日常管理を行った。	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管 理を行う。	イベント等の開催日は駐車場 案内員を配置するなど、適切な 警備体制により、来館者の安全 確保に努めた。	◎	◎
	小規模修繕	財産等について必要な修繕を 行う。	樹木の枯枝伐採や避難口誘導 灯の取替を行った。 危険な状態を取り除くことはも とより、安全で快適な施設とな るよう修繕を実施した。	○	○
	法定点検の実施	法令等に基づき定期点検等を 適正に行う。	消防設備機器点検・機器総合 点検、受水槽清掃及び水質検 査を適正に実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	9時から21時まで 休館日(12月29日から1月3 日)を除く。	新指定管理者への引継ぎ等の ため、3/25～3/31 まで休館し た。	◎	○
	公共性・公平性の確保	正当な理由がない限り、施設を 利用することを拒んではならな い。また、施設を利用すること について、不当な差別的取扱 いを行わない。	会館利用者が利用しやすい環 境を整え、公共性・公平性を確 保した運営を行うことができ た。	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	文化的行事の開催。社会教育及び学校教育に関する講座の開設。講習会、講演会、展示会の開催等。機関誌清流発行。ホームページ運営。	【指定管理業務】 4 年制大学講座開講年間 27 回、2 年制大学院講座開講 22 回、地域公開講座開催等、事業計画に基づき実施することができた。 【自主事業】 地域の各種団体等と協働して、西播磨ふるさと文化祭や播磨「歴史・地域学」講座を開催し、伝統文化等に関する学びや活動の機会を提供した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	利用者へアンケートを実施し、利用者満足度を調査することにより、事業計画や施設運営に役立てる。	令和 5 年 11 月に 1 回、会館利用者へアンケート用紙を配布し調査を行った。 管理・運営についての全ての質問項目において、90%以上が満足との回答であった。	◎	◎
利用状況	利用者数	前年度増 [前年度:90,876 人]	81,104 人	○	△
	施設稼働率	前年度増 令和 4 年度実績 講堂: 14.2% 会議室: 7.9% 美術展示室: 30.8% 体育館: 37.1% 運動場 25.7% 等 [平均: 16.5%]	令和 5 年度実績 講堂: 15.3% 会議室: 8.4% 美術展示室: 29.6% 体育館: 63.1% 運動場: 23.9% 等 [平均: 18.9%]	◎	○
収支状況	収支計画と実績	【当初予算】 収入 52,081,523 円 内訳(指定管理料等収入 48,007,000 円、施設使用料収入 1,540,820 円、その他収入 2,533,703 円) 支出 52,081,523 円	収入 57,975,258 円 内訳(指定管理料等収入 53,176,000 円、施設使用料収入 1,571,258 円、その他収入 3,228,000 円) 支出 57,975,258 円	◎	○
	経費節減に向けた取組	節電の徹底	使用していない部屋の電灯やエアコンの電源を切る等節電の徹底に取り組んだ また、軽微な修繕等は職員で対応することで経費削減につなげた。	◎	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情については、担当者だけで終わらせず、館の問題として職員全体で解決を図る。	苦情・要望への対応状況等について、ホームページに掲載し周知している。速やかに対応し、改善に努めることができた。	◎	◎

危機管理体制の確保	事故、急病・けが、事件等が起こった場合に、適切かつ速やかな対応を行うため、あらかじめ事故対策マニュアルを策定する。	消防訓練を年2回実施した職員連絡網・災害時職員行動マニュアルを作成・配布した。	◎	◎
県・関係機関との連携	県との連絡調整を十分に図り、適切かつ迅速な対応を行う。	協会本部を通じた連絡調整だけでなく、定期的に西播磨県民局の連絡会議に出席するなど情報交換・連携に努めている	◎	◎
業務の再委託の状況	施設管理に関する業務の一部を委託する。	複合機保守、複合機リース、機械警備、自家用電気工作物保安管理、消防設備保守点検、一般廃棄物処理、昇降機保守点検、建物等清掃	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

業務計画・目標に沿い、おおむね計画通りに運営を行うことができた。

会館利用状況について、利用者数は減少したものの、稼働率は令和4年度と比較して上昇した。また、事業や施設設備を充実させたことで、利用者アンケートの管理・運営についての全ての質問項目において、90%以上の満足の評価を得ることができ、令和4年度の管理運営評価の際に来年度の課題としていた満足度向上の目標を達成した。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 県民躍動課

施設名	西播磨文化会館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 各項目において、事業計画に基づいて適切に業務が実施されている。
- ・ 利用者数は前年度比で減少したものの、施設稼働率は平均 2.4%上昇しており、積極的なPRが成果につながっている。
- ・ 利用者アンケートにおいてもおおむね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和6年度からは公募による新指定管理者の運営になることを踏まえ、利用者に影響の少ないスムーズな引継ぎを行うとともに、今までの運営における成果や課題等についても情報共有するよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	—	—	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	淡路文化会館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)を行う。 [業務仕様書 第3-3-(4)]	日常清掃は、土曜・日曜・祝日を除く週5日実施。 定期清掃は、ワックス掛け、ガラスクリーニングを実施した。	◎	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防等の運転・保守及び空気環境・水質・防虫等衛生管理を行う。 [業務仕様書 第3-3-(2)]	業者委託により、電気設備・消防・水質・防虫等の定期点検を実施した。	◎	◎
	植栽管理	施設全体の植栽管理を行う。 [業務仕様書 第3-3-(4)]	除草・植栽の一部の作業は、シルバー人材センター等に委託し、実施した。 また、高齢者大学の受講生による自治会活動により美化活動を実施した。	◎	◎
	警備	施設全体の警備及び駐車場管理を行う。 [業務仕様書 第3-3-(5)]	休館日、夜間について、機械警備により警備会社に業務委託した。	◎	◎
	小規模修繕	建物を管理し、施設が安全に利用できるように努める。 [業務仕様書 第3-3-(1)]	不具合が発生した箇所において、可能な限り速やかに修繕を実施した。	◎	◎
	法定点検の実施	自家用電気工作物保守点検、消防設備点検、防火対象物点検、浄化槽水質検査、ボイラー熱交換器性能検査、ボイラー煙道排ガス測定を実施する。	左記の法定点検について、実施した。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	休館日:12月29日~1月3日 開館時間:9:00~21:00 [業務仕様書 第2-1、第2-2]	新指定管理者への引継ぎ等のため、3/18~3/31まで休館した。	◎	○
	公共性・公平性の確保	本館(調理教室)、講堂、別館(会議室、美術展示室、視聴覚教室)、体育室、多目的グラウンドについて、統一的な基準により貸館業務を行う。 [業務仕様書 第3-1]	統一的な基準により貸館業務を行い、特定の利用者に利用が偏らないよう、公平な受付業務に努めた。	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	<p>青少年及び成人の教養を高め、地域文化の向上及び地域スポーツの振興を図るとともに、生活創造活動を支援するため、事業を実施する。</p> <p>[業務仕様書 第3-2]</p>	<p>・指定管理業務 「いざなぎ学園」地域公開講座(1回) 「いざなぎ学園大学」見学会(5回) 「いざなぎ学園大学」(29回) 「いざなぎ学園大学院(地域活動実践講座)(22回)</p> <p>・自主事業 淡路日本画セミナー講座(10回)、同作品展(3回) 淡路洋画セミナー講座(10回)、同作品展(1回) パッチワーク講座(10回)</p>	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	<p>アンケート配布により利用者満足度調査を実施し、ニーズを把握し、施設運営・事業計画に反映させる。</p> <p>[基本協定書第35条]</p>	<p>令和5年11月1日から令和6年1月31日の間アンケートを配布し、利用者満足度調査を実施した。</p>	○	○
利用状況	利用者数	[前年度:39,157人]	令和5年度利用者数 34,522人	○	△
	施設稼働率	<p>稼働率の増加に努める。</p> <p>令和4年度実績 講堂:10.9% 会議室:10.6% 美術展示室:75.6% 視聴覚教室:12.7% 調理教室:2.9% 体育室:32.0% 多目的グラウンド:11.3% グラウンド:22.3% 平均:22.3%</p>	<p>令和5年度実績 講堂:11.5% 会議室:10.2% 美術展示室:85.8% 視聴覚教室:12.9% 調理教室:2.5% 体育室:26.4% 多目的グラウンド:8.6% グラウンド:16.4% 平均:21.8%</p>	○	△
	収支計画と実績	<p>計画(単位:千円) 〈収入〉 指定管理料:59,378 利用料金等収入:1,059 事業収入:700 合計:61,137 〈支出〉 合計:61,137 [令和5年度業務計画書、当初予算]</p>	<p>実績(単位:千円) 〈収入〉 指定管理料:87,703 利用料金等収入:1,055 事業収入:2,864 合計:91,622 〈支出〉 合計:91,622</p>	◎	◎

収支状況	経費節減に向けた取組	コストカットのため業務や実施の手法を見直す。 また電力契約基本料や使用料削減のためデマンド監視装置を設置し管理を行う。	デマンド管理による契約電力の抑制等により経費削減に努めた。 また、印刷の方法を枚数により使い分けることで印刷代の削減に努めた。	○	○																			
	苦情要望等の対応体制・内容	苦情等が発生した場合は速やかに対応し、管理職への連絡を密に行い、処理を行う。 また、アンケート等により利用者からの要望を確認し、サービスの向上を目指す。	苦情等が発生した場合は速やかに対応し、管理職への連絡を密に行い、処理を行った。 また、アンケート等により利用者からの要望を確認し、サービスの向上を図った。	○	○																			
運営体制	危機管理体制の確保	協会災害等対策本部設置要綱に基づき災害対策本部を設置し、災害時の職員の行動マニュアルを策定し、危機管理体制を構築する。 また、消防訓練・避難訓練を年2回行う。	協会災害等対策本部設置要綱に基づき災害対策本部を設置し、災害時の職員の行動マニュアルを策定し、危機管理体制を構築した。 また、消防訓練・避難訓練を2回行った。	◎	◎																			
	県・関係機関との連携	関係機関と連携を密にし、業務を行う。	事業を行うにあたり、県民局、教育委員会や文化団体等の関係機関と連絡を密にし、体制を整えた。	◎	◎																			
	業務の再委託の状況	入札等により適切な委託先を選定し、業務の委託を行う。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>業務内容</th> <th>委託先</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清掃業務委託</td> <td>緑クリーンサービス</td> </tr> <tr> <td>機械警備</td> <td>セコム(株)</td> </tr> <tr> <td>浄化槽保守</td> <td>(有)中淡清掃</td> </tr> <tr> <td>電気設備保守</td> <td>倉尾和実</td> </tr> <tr> <td>ウェブサイト保守</td> <td>(有)スリークラフト</td> </tr> <tr> <td>空調機器点検</td> <td>(株)淡路空調</td> </tr> <tr> <td>鯉の池揚水料</td> <td>槇ヶ谷田主</td> </tr> <tr> <td>除草作業等</td> <td>淡路市シルバー人材センター</td> </tr> <tr> <td>消防設備点検</td> <td>清水冷機電機</td> </tr> </tbody> </table>	業務内容	委託先	清掃業務委託	緑クリーンサービス	機械警備	セコム(株)	浄化槽保守	(有)中淡清掃	電気設備保守	倉尾和実	ウェブサイト保守	(有)スリークラフト	空調機器点検	(株)淡路空調	鯉の池揚水料	槇ヶ谷田主	除草作業等	淡路市シルバー人材センター	消防設備点検	清水冷機電機	◎
業務内容	委託先																							
清掃業務委託	緑クリーンサービス																							
機械警備	セコム(株)																							
浄化槽保守	(有)中淡清掃																							
電気設備保守	倉尾和実																							
ウェブサイト保守	(有)スリークラフト																							
空調機器点検	(株)淡路空調																							
鯉の池揚水料	槇ヶ谷田主																							
除草作業等	淡路市シルバー人材センター																							
消防設備点検	清水冷機電機																							

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

施設維持管理、運営業務においては適切な対応を実施できた。
適切な運営体制を整え、適切な施設維持管理、工事に対する安全確保等、利用者が安心・快適に利用できる会館となるよう努めた。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 県民躍動課

施設名	淡路文化会館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県生きがい創造協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 各項目において、事業計画に基づいて適切に業務が実施されている。
- ・ 一方、利用者数や施設稼働率については低調となっているため、更なるPRや利便性の向上に向けた取組が必要である。
- ・ 利用者アンケートにおいてもおおむね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

令和6年度からは公募による新指定管理者の運営になることを踏まえ、利用者に影響の少ないスムーズな引継ぎを行うとともに、今までの運営における成果や課題等についても情報共有するよう指導した。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	—	—	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県民会館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県芸術文化協会	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	建物を管理し、かつ、美観維持を行う。 施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・階段・トイレ・窓ガラスなど)を行う。	清掃管理は適切に実施。貸会議室は使用終了毎、階段・トイレ等は毎日、団体事務所は週1回モップ掛け、各フロアのワックス掛けは年2～4回実施し、美観を維持。 新型コロナウイルス感染予防のため、共有スペースや設備、備品等の消毒・除菌対策を実施。使用頻度の高いトイレ、ロビーでは清掃頻度を増やし、従来の日常・定期清掃に消毒・除菌対策も含め、椅子・テーブル、ドアノブ等接触部位は入念に清掃。床面は全館洗いワックスを行い、汚れを一掃している。	○	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降設備及びホール設備等運転・保守並びに空気環境・水質・防虫等の衛生管理を行う。	設備保守管理は適切に実施。点検等は定期的に行っている。 ・中央監視装置・電気設備・高架水槽:年1回 ・空気自動制御機器:年2回 ・水質検査:年3回 ・空気環境測定:年6回 ・防虫駆除・昇降設備:毎月 設備の老朽化が顕著だが、常に設備機器の状態に注意し、諸設備の運転・保守及び衛生管理を適切に実施するとともに、突発的な故障等にも迅速に対応し早期復旧に努めている。 細やかなシステム管理で空調温度管理を向上。会館利用者や団体事務室の協力のもと夏期の電気温水器停止などで節電。今後も一層の電力削減を図る。	○	○
	植栽管理	施設周辺の美観維持を行うとともに植栽管理を実施する。	植栽管理を適切に実施。通路にはみ出た樹木や植物	○	◎

			はその都度除去。 咲き終わった植木の剪定など、建物の美観維持にも繋がった。		
	警備	施設全体の警備(常駐、夜間警備、巡回警備など)及び車庫、駐車場管理を行う。	施設全体(車庫含む)の警備を適切に実施。 常駐、夜間警備、巡回警備(朝、昼、夜9回)を実施。施設、エレベータ及び車庫内の監視カメラ等で常時、不審者の入館を監視。 巡回警備では、団体事務所等施錠確認、不審者等の監視等利用者の安全に気を配りながら、駐車場を含めた施設全体の警備・管理を実施。	○	◎
	小規模修繕	施設利用者に快適に利用していただくよう心がけており、また、日常の業務に支障のないよう修繕を行う。	施設利用者の安全・安心を確保するため、防排煙設備の修繕や、自動ドア防護柵の設置等、喫緊の修繕を行った。	◎	◎
	法定点検の実施	建物・設備・環境衛生などについて法令等の規定に基づき、有資格者による点検・調査を実施する。	施設、設備、備品等の日常点検に加え、定期点検として法令等に定める基準に従い有資格者や技術員による点検・調査を実施。 異常等判明した場合は迅速に修繕等の措置を取った。	○	◎
運営業務	開館日・開館時間等	1 休館日 (1) 1月1日～3日及び 12月29日～31日 (2) 4月第3月曜日 (3) 6月、8月の第3日曜日 2 開館時間 午前9時から午後10時	1 休館日 (1) 1月1日～3日及び 12月29日～31日 (2) 4月17日 (3) 6月18日 (4) 8月12日<臨時>、13日 2 開館時間 午前9時から午後10時 休館日に消防設備や電気・ガス設備の点検、汚水槽・雑排水槽の清掃を実施。 併せて、開館時に実施できない事項も適切に処理。	○	◎

運営業務	公共性・公平性の確保	すべての会館利用者への平等・公平・公正な利用機会の確保	<p>1 ギャラリー ギャラリー運営会議への諮問・承認(年3回開催)</p> <p>2 会議室・ホール 予約申込初日に抽選(メール、FAXで申込可能)</p> <p>3 施設・設備や空室状況の情報提供 ホームページへの掲載や空き期間の展示室のPRチラシなどにより情報提供</p> <p>ギャラリーは利用者から提出された利用計画書に基づき、日程調整のうえ、ギャラリー運営会議に諮り承認。 また、その他貸室は先着順を前提に抽選を行い、公平な運営に努めた。</p>	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	芸術文化の鑑賞や生涯学習の機会などを提供し、県民文化の向上を図るため、展示事業その他の文化事業を行う。	<p>1 県民会館の利用促進に資する事業 会館の利用促進を図るため、生涯学習や芸術文化活動への参加機会を提供する事業を実施。</p> <p>2 県民文化の向上に資する事業 会館周辺でのコンサートや顕彰事業、文化情報提供事業など県民文化の向上に資する事業を実施。</p> <p>3 公益文化事業を支援する募金の募集 1階フロントに募金箱を設置し募金活動を実施。</p>	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	業務の質とサービスの向上を図ることを目的に、利用者等から運営に関する意見を聴取する。	アンケート調査の実施 実施期間: R5.7.8~7.15 R6.2.3~2.10 調査内容 施設設備の状態、施設の清潔さ、職員・スタッフの対応・人数、利用料金の設定、総合的な満足度(3~5段階) アンケート調査の結果では、「職員・スタッフの対応」で84%の人が満足と回答しており、管理・運営の各項目で概ね良好な評価を得ており、顧客満足度は良好である。	○	◎
利用状況	利用者数	できるだけ多くの県民に利用いただけるよう心がける [前年度:423,385人]	令和5年度利用者数 449,311人 徹底した感染対策を行い来館者に安全・安心な環境を提供したが、来館者はコロナ禍前の元年度の利用者数までの回復に至っていない。 (元年度利用者数:480,028人)	○	◎
	施設稼働率	できるだけ多くの県民に利用いただけるよう心がける [前年度:57.3%]	11階ホール 74.4% 9階ホール 69.1% 会議室 61.9% 集会室 55.5% 宴会室 63.9% ギャラリー 45.0% 付属駐車場 延36,829台 専用車庫 延497台 ホールや会議室、ギャラリーの利用率(59.8%)は、新型コロナウイルス感染拡大期から回復傾向にあるが、耐震診断実施の公表後は対前年度伸び率が鈍化している。	○	◎
	収支計画と実績	収支のバランスを考慮した事業計画の実施。 R5計画 ＜収入計 245,957千円＞ 施設利用料 191,107 会館運営 47,850 県補助金 7,000 ＜支出計 245,957千円＞ 人件費 29,189 物件費 121,668 還付金 95,100	R5決算 ＜収入計 234,035千円＞ 施設利用料 177,398 会館運営 46,828 県受託事業 2,794 県補助金 7,000 雑収益 15 ＜支出計 234,035千円＞ 人件費 30,336 物件費 115,541 還付金 88,158	△	○

収支状況	経費節減に向けた取組	利用者の快適性を損なわずに節減に取り組む	室内温度の制御 団体事務室や会館利用者が使用する会議室については、設定温度を細やかに制御。 兵庫県の電力一括購入に参加し経費節減を図っている。	◎	◎
	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の苦情要望に応え、快適な環境を提供する。	利用者からの苦情要望等に、迅速かつ丁寧な対応を図ることで、適切に処理。 重要案件については、定例連絡会議に諮るなど適切に対応。	○	◎
運営体制	危機管理体制の確保	年2回の消防訓練を行い、緊急事態に備える。 県民会館は、令和元年から帰宅困難者の一時滞在施設となり、豪雨や地震等災害による緊急事態に公的施設としての役割を果たす。	所轄消防署に届出し、県民会館入居団体の職員も参加する総合消防訓練・防災訓練を実施。 緊急連絡網を整備するとともに、病人の発生時の救急車の発動要請や警察への通報・連絡等を行った。 県・市・民間施設で構成する「神戸都心・臨海地域帰宅困難者対策協議会」の作業部会に参加。周辺施設等との情報交換や訓練に参画。	○	◎
	県・関係機関との連携	県、市、消防、警察等機関と連絡をとり、安全、安心な環境の保持に努める。	毎月の定例連絡会議を通して、所管課や協会本部と綿密に情報交換するなど、関係機関との連携を適切に行った。 また、芸術文化関係合同会議や公立文化施設協議会(県・阪神)にも参加。	◎	◎
	業務の再委託の状況	清掃等ビル管理業務、昇降機保守業務など施設・設備等の保守管理に係る業務などを再委託。	有資格者等による法定点検業務等も含め、施設・設備等の保守管理に適切な事業者を会計規程に基づき選定・委託。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 利用状況等

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが変更され、施設利用に改善傾向が見られるが、対面会議の減少等と相まって会議室等の利用は微増にとどまっている。

また、利用の回復傾向に伴い、施設利用収入も対前年度比 4.2%の伸びを確保できたが、耐震診断の実施・休館の可能性等の公表後、定期的利用者の流失等による減収があり、県より還付金の減額措置を受け、収支均衡を図ることができた。

2 施設・設備改修

県民会館は築55年以上が過ぎており、施設利用者の安全・安心の利用のため、施設・設備の改修やメンテナンスを適時適切に行なっている。

3 令和6年度の取組目標等

これまでの基本方針を堅持し管理運営を行う。また、県が行う会館の耐震診断(時刻歴応答解析)の実施に協力するとともに、その結果判明後の施設利用者への対応等を行う。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部芸術文化課

施設名	兵庫県民会館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 事業計画に基づいた、適切な管理運営が実施された。
- 施設が老朽化しているが、小修繕等適切に対応しており、施設の保守安全管理において配慮が行き届いている点が高く評価できる。
- 新型コロナウイルス感染症以降、利用率の回復が芳しくないなか、経費削減に努め、収支安定化を目指した。
- 館内清掃など感染症対策を徹底するとともに、利用者へ丁寧な説明を行い、理解を求め、安心安全な運営を行っている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者アンケートにおいても概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。引き続き、安全・安心かつ快適な施設の提供と利用者サービス向上に努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理 者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラス等)及び管理を行う。 清掃は日常業務として実施した。(週6回、年306回) 床のワックスがけ 年12回、窓ガラス磨き 年4回実施した。他、突発的な汚れ等への清掃対応。 計画どおり適切に行い、施設利用者アンケートにおける「施設の清潔さ」では、93.2%が満足していると回答。	○	◎
	設備保守管理	施設全体の空調・電気・ガス・消防・昇降設備及び空気環境・水質・防虫等の衛生管理を行う。 空調冷凍機簡易点検 年4回、電気設備 月1回、消防 年2回、昇降設備 年16回、空気環境 年6回、水質 年1回、防虫 年2回の設備保守・衛生管理点検を実施した。急な設備故障への対応。 諸設備の運転・保守及び衛生管理を適切に行い、利用者の安全・安心を保ち、優れた管理運営を行った。	○	◎
	植栽管理	施設全体・敷地内の植栽管理を行う。 日常業務として実施した。(週6回、年306回) 年3回花の植え替えを実施した。毎日、枯れ葉を掃除し、定期的に季節の花に植え替えるなど植栽管理を適切に行い、来館者に、劇場としての雰囲気醸し出す、良好な環境を整えた。	○	◎
	警備	施設全体の警備(常駐、夜間警備、巡回警備等)及び駐車場管理を行う。 施設警備、駐車場管理を適切に実施した。(自動警備 週7回、年365回含む) 来館者へ職員の声かけを行うなど、安全、安心な劇場を提供した結果、トラブルはなく、利用者の満足度も高く、優れた管理運営を行った。	○	◎
	小規模修繕	施設全体の維持管理のため不良個所の修繕を行う。 老朽化した施設各所の錠前や扉、照明など不具合箇所の修繕を行った。	◎	◎

			施設の諸設備の保守・維持管理をきめ細かく行い、施設利用に支障をきたさない、優れた管理運営を行った。		
	法定点検の実施	法定点検を実施し、適正な保全業務を行う。	・電気設備、昇降機、消防設備、蓄電池等法定点検等を適切に実施し、消防設備の不具合など迅速な改善に努めた。 また、特定建築物における建築設備及び防火設備の法定点検を実施した。	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	管理運営業務仕様書のとおり業務を行う。	開館時間:9:00～21:00 開館日数:306日 休館日:定休日51日(原則月曜日)。 年末年始休館日12月29日～1月3日の6日。 必要に応じて早朝、夜間の延長対応を行い、利用者の利便性に配慮し、優れた管理運営を行った。	○	◎
	公共性・公平性の確保	管理運営業務仕様書のとおり業務を行う。	管理運営業務仕様書のとおり業務を行った。 また、音楽・舞踊相談員、演劇相談員を配置し、アマチュアの利用者が本格的な舞台芸術公演を行える運営体制をひき、優れた管理運営を行い、施設利用者アンケートにおける「全体満足度」では、97.4%が満足したとの結果をえている。	◎	◎

各種事業・プログラムの実施状況	<p>大・中・小ホール、楽屋、練習室等を統一的な基準により貸館業務を行う。</p> <p>青少年の自由な創造活動を促進し、県民文化の高揚を図るため、文化事業を実施する。</p>	<p>貸館業務 自主事業</p> <p>(1)鑑賞劇場 10 事業</p> <p>(2)文化セミナー 1 回 文化セミナーホ 3 回</p> <p>(3)実技教室 5 事業</p> <p>(4)演劇学校 ア 授業 イ 公演実習 ウ 公開授業 エ 選考試験</p> <p>(5)舞台技術学校 ア 授業 イ 公演実習 ウ 公開授業 エ 選考試験</p> <p>(6)ピッコロ演劇賞の贈呈</p> <p>(7)県立ピッコロ劇団 ア 公演 イ 演劇指導 ウ 外部出演等</p> <p>大・中・小ホール、楽屋、練習室等の使用料収入の確保に努め、約 92.7%の利用率とした。</p> <p>シアタースタート、桂ざこば一門の落語会等、優れた舞台芸術を紹介する鑑賞劇場 10 事業を実施し、入場者総数 2,817 人となったほか、青少年の創造活動を促進し、県民文化の高揚を図った。</p> <p>県立として全国初の兵庫県立ピッコロ劇団(劇団員 35 人)は、優れた舞台芸術の創造と地域文化の振興をめざし、10 事業 49 公演を行ない、観客者数は 9,648 人であった。アウトリーチ活動として、演劇手法を使ったゲーム等を通して豊かな表現力や感受性を小学生に育む「あつまれピッコロひろば」事業を無償で行うなど、優れた管理運営を行った。</p>	○	◎
利用者満足度調査結果(アンケート調査)	利用者満足度調査を実施する。	<p>令和 5 年 11 月 1 日～令和 5 年 12 月 28 日に実施した。</p> <p>施設利用満足度調査において、職員対応に 98.3%が満足し、施設サービス内容でも 89.7%が満足しており、高い評価を維持している。</p>	○	◎

利用状況	利用者数	年間来場者総数は10万人を目標とする。 [前年度:7万7千人]	依然としてコロナ禍による影響が残り、年間来場者総数は、約9万8千人となり目標を下回ったが、徐々に回復傾向になっている。	○	◎
	施設稼働率	年間の劇場全体稼働率は90%を目標とする。 [前年度:100%]	年間の劇場全体稼働率は92.7%となり目標を達成した。	○	◎
	収支計画と実績	<p>収入合計 428,319 千円 支出合計 428,319 千円</p>	<p>予算執行を適切に行った。 (税込、千円)</p> <p>収入 <劇場> 1 指定管理収入 113,775 2 受託事業収入 0 3 施設利用料収入 20,326 4 補助金収入 27,427 5 補助事業収入 22,485 計 184,013 <劇団> 1 補助金収入 192,819 2 補助事業収入 51,487 計 244,306 合 計 428,319</p> <p>支出 <劇場> 1 人件費 72,178 2 物件費 74,076 3 補助事業費 34,051 4 特定収入にかかる消費税控除等 3,708 合 計 184,013 <劇団> 1 人件費 114,419 2 物件費 145,945 3 特定収入にかかる消費税控除等 △16,058 計 244,306 合 計 428,319</p> <p>文化庁から43,068千円の助成金を得るなど、外部資金の導入により、よりいっそう充実した公演等の事業展開を行い、優れた管理運営を行った。</p>	◎	◎

収支状況	経費節減に向けた取組	省エネ対策による経費節減	冷暖房の適切な温度設定、事務室・ロビー等天井灯の一部消灯、照明のLED化により、消費電力の節約に取り組んだ。 利用のない時間帯の消灯、空調の停止などを実施したほか、照明のLED化及びセンサーライトの設置で節電を行った。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者満足度調査等を実施する。	利用者満足度調査や、主催事業ごとの来場者アンケートを実施し、管理、監督職が目を通し苦情要望等に迅速に対応した。	○	◎
	危機管理体制の確保	消防訓練を実施する。	年2回の消防訓練を通して、非常連絡網等の確認を行った。 防火管理関係の資格取得者が6名おり、自主事業を想定した実地訓練を行うなど、優れた管理運営を行った。	○	◎
	県・関係機関との連携	毎月芸術関係連絡会議を開催する。	毎月の芸術関係連絡会議を通して、情報交換を綿密に行った。 県芸術文化課、県芸術文化協会本部ばかりでなく、地元尼崎市と随時連絡・連携を行い、優れた管理運営を行った。	○	◎
	業務の再委託の状況	施設の維持管理における業務の再委託を適切に行う。	再委託率 30.7%と適正な管理運営を行った。	○	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

それぞれの項目において協定等に定める内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部芸術文化課

施設名	県立尼崎青少年創造劇場(ピッコロシアター)	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

それぞれの項目において、事業計画に基づき適切に業務が実施されている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 利用者へのアンケートによる満足度調査で全体的に高い評価を受けており、適切な維持管理ができ、施設全体の89.7%と高い利用率を維持している。
- 施設が老朽化しているが、小修繕等適切に対応しており、施設の保守安全管理において配慮が行き届いている点が高く評価できる。また、H30～R2 に県が進めてきた大規模改修工事についても、利用者・施設・ホール関係者・工事関係者に係る総合的な調整機能を担っているほか、指定管理者として業務に密接に関係する一部事業を受託するなど、主体的にその役割を果たしている。
- 県の芸術文化施策方針に沿って、指定管理事業の運営のみならず、独自の自主事業展開を図り、公立施設としての社会的役割を一層高めている。
- 指定管理者による適正な管理運営がされていると判断するが、県として、引き続き、適正かつ必要な指導、監督に努めるとともに、利用者サービス向上のため、良好な管理・運営の継続と、有効な広報・アンケート実施など取組みを求めている。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	芸術文化センター	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	<p>【実績】 左記の清掃業務に加え、突発的な汚れ等への対応</p> <p>【評価】 施設利用者アンケートでは、「施設の清潔さ(清掃状況等)」の満足度は99%となっている。(R5年度アンケートより)</p>	◎	◎
	設備保守管理	<p>【実績】 左記の業務に加え、急な設備故障等への対応</p> <p>【評価】 日頃の点検と適切な運転により、95%を超える高稼働の施設を支えている。</p>	◎	◎
	植栽管理	<p>【実績】 左記の業務に加え、緊急時の特別植栽業務を実施</p> <p>【評価】 適切な植栽管理により美観を保ち、年間約50万人の来館者の心を癒している。</p>	◎	◎
	警備	<p>【実績】 世界一流のアーティストを含む年間数万人に及ぶ楽屋入館者への適切な対応のほか、火災訓練時には自衛消防隊の中核的役割を担当</p> <p>【評価】 日頃の機器メンテナンス・巡回警備・守衛業務により、年間約50万人の来館者の安心・安全を確保するとともに、出演するアーティストやスタッフを最初に迎える楽屋口においても丁寧な接遇を行っている。</p>	◎	◎
	小規模修繕	<p>【実績】 来館者の安全・安心を確保するうえで急務を要するものについては直ちに実施。空調機の修繕、防災受信盤補修、自動扉補修、大ホール屋上庭園透水管工事等を適宜実施。</p> <p>【評価】 連日多くの来館者が訪れる施設であるため、急務を要する修繕にも早急の対応を行い、来館者の安全・安心や快適性を確保した。</p>	◎	◎

	法定点検の実施	建築設備定期点検、建築物定期調査(特殊建築物定期調査)、防火設備定期検査、連結送水管耐圧試験	<p>【実績】 建物の安全管理の為の各種建築設備の点検や、有事の消火活動に支障のないようにする為の消防設備の点検等を実施</p> <p>【評価】 来館者・利用者・職員が安心して鑑賞、施設利用、就業できる環境を整えている。</p>	◎	◎
	その他	フロント業務(ホール案内、総合案内、チケット販売、グッズ販売管理、スタジオ受付)、チケットオフィス管理(チケット予約販売、発送等)、ホール楽屋管理、舞台機構・照明設備・音響設備の技術操作、保守管理、定期調律等	<p>【実績】 開館時の想定よりも2割増のホール稼働率で運用しており、令和5年度の年間公演数は659であったが多数の公演を無事終了した。また、障害者・高齢者への配慮や急病人への対応も迅速丁寧に行った。</p> <p>【評価】 年間約650に上る公演に適切に対応。施設利用者アンケートでは、スタッフへの満足度は95%超、また、舞台機構・照明・音響などの設備についての満足度も100%となるなど、ソファ面・ハード面とも利用者から非常に高い評価を得ている。(R5年度アンケートより)</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	原則として、月曜日休館(夏季・冬季に臨時休館)、午前9時から午後10時まで(駐車場は午前7時から午前0時まで)	<p>【実績】 利用者の要望に応じ、午前9時や午後10時を超えた早朝・夜間の延長を実施。また、総合案内所・チケットカウンターは通常午後5時までであるが、必要に応じ延長営業を実施。さらに、チケット発売日には、スタッフ40名、電話35台体制を整え、利用者の利便性向上を図った。</p> <p>【評価】 施設利用者アンケートでも、9割を超える高い満足度となっている。(R5アンケートより)</p>	◎	◎
	公共性・公平性の確保	施設利用基準によりセンターの目的に沿った施設利用を推進	<p>【実績】 専任のスタッフを置き、施設利用の相談案内に応じている。ホームページにおいて、ホール等施設の空き状況等の情報を提供。利用希望者が多いため、毎月、抽選会を実施。施設利用受付後、施設利用審査会を実施(月1回)。</p> <p>【評価】 センターの特徴を生かした本格的舞台芸術公演に多数利用されている。</p>	◎	◎
		施設利用料金の設定	<p>【実績】 県条例や規則に基づく利用料金の徴収や申請手続を実施</p> <p>【評価】 公演内容に応じた適正な受益者負担を図るとともに、適切な事務手続を行っている。</p>	◎	◎

各種事業・プログラムの実施状況	<p>1 芸術文化センターの運営 (1)創造・公演事業の実施 (基準:36事業 58公演)</p> <p>①プロデュース事業 ②招聘・提携・共催事業 ③普及・交流事業の実施 ④翌年度以降の事業準備</p>	<p>【実績】 143事業 239公演実施</p> <p>①プロデュース事業(12事業 31公演) 芸術監督プロデュースオペラ「ドン・ジョヴァンニラ・ホーム」(8公演)、シルヴェスター・コンサート(1公演)、社会包摂プログラム(1公演)ほか</p> <p>②招聘・提携・共催事業(101事業 172公演) 様々な国の優れた舞台芸術を上演するほか、「世界音楽図鑑」(5公演)、「古楽の愉しみ」(9公演)、クリスマス・ジャズ・フェスティバル(6公演)などの企画公演をシリーズ展開。 関東圏の公立館と連携して良質な演劇公演を実施する等、国内トップ・レベルの舞台芸術を継続して実施することができた。</p> <p>③普及・交流事業(30事業 36公演) ワコインコンサート(入場料 500円)(10公演)、舞台芸術団体フェスティバル、ピッコロ劇団公演 ほか</p> <p>【評価】 事業費補助金(3.5億円)を活かした独自の事業を展開することで、コロナ禍の状況においても、徹底した感染防止対策(売り止め、PCR検査、公演直前の変更・中止など=収入の減・経費の増、職員の負担増)を講じながら、基準の約3倍の事業・公演数を実施。 「芸術監督プロデュースオペラ(長期公演)」は、計8公演を計画どおり実施した。ワコインコンサート、プロムナードコンサートなどの低額入場料公演では、身近な劇場で生の舞台芸術に親しんでいた。ただけだ。 舞台芸術団体フェスティバルでは、幅広い県内団体に上演機会を提供し、地域の文化力向上に貢献。 観客アンケートでは、公演満足度は 98.1%に及び、県民から高い支持・共感を得ている。(R5年度アンケートより)</p>	◎	◎
	<p>(2)貸館事業の実施</p>	<p>【実績】 各ホール(326事業 349公演)、リハーサル室(利用率 95%)、スタジオ(利用率 94%)等の貸館事業を実施</p> <p>【評価】 幅広いジャンルのプロ・アマチュアの利用に供し、高い利用率となっている。施設利用者の「利用後の全体的な印象」の満足度は 100%と非常に高く、「今後もホールを利用したい」団体等は 99%にのぼる。(R5年度アンケートによる)</p>	◎	◎

		<p>2兵庫芸術文化センター管弦 楽団の運営 (1)楽団事業の実施 (基準:88 公演)</p>	<p>【実績】 ・演奏活動(96 公演) ①定期演奏会(9 事業 27 公演。 ②特別演奏会(4 事業 4 公演) ③室内楽演奏会(4 事業 4 公演) ④青少年鑑賞公演(1 事業 40 公演) ⑤外部依頼公演・外部公演(16 事業 17 公 演)、SKO 公演(2 事業 4 公演) *上記のほか、芸術文化センター事業 4事業 11 公演に出演 ⑥アウトリーチ活動(44 回) 一般を対象としたアウトリーチに加え、「小 学校・特別支援学校アウトリーチ」は、通常 の公募に加え遠隔地(令和 5 年度:淡路)にも重 点実施するなど、幅広く展開した。</p> <p>【評価】 定期演奏会や特別演奏会などの演奏活動 をはじめ、「オーケストラ・キャラバン」として九 州や東北でも公演を行うなど幅広く県内外で の演奏活動を実施した。定期会員数が客席定 員数の7割を超える(4,311 人)など多くの方々 に楽団の魅力を伝えることができた。 普及・体験事業では、小学校等アウトリー チの実施が少なかった淡路地域で重点実施 するなど、佐渡芸術監督とともに県内活動も 継続して展開した。「わくわくオーケストラ教 室」では、アンケートで約 97%の生徒が「参加 してよかった」という高い評価を得られた。 スーパーキッズ・オーケストラは、佐渡裕芸 術監督とともに復興祈念演奏活動として宮城・ 岩手県内7会場に「こころのビタミン」として演 奏を届け、被災地に喜ばれた。さらに、活動 の範囲を海外(ベトナム)に広げ、国際交流の 大きな役割を果たしたほか、東京・大阪で実 施した 20 周年特別コンサートでは、両会場の入 場率が 80%を超えるなど、同事業の認知度向 上に寄与した。</p>	◎	◎
--	--	--	--	---	---

		(2)楽団の運営	<p>【実績】 以下の体制により運用 ①レジデント・コンダクター、②常勤奏者(コンサートマスター2名、コアメンバー 48 名)、③アソシエイト・プレイヤー(客演演奏家により大規模編成の演奏体制整備)、④事務局職員</p> <p>【評価】 コアメンバーはセンターでの活動実績を重ねる中で一層技量を向上させ、国内外プロオーケストラの主要メンバー(関西フィルコンサートマスター等)として転出するなど、楽団設立理念の一つであるアカデミー機能についても着実に成果を上げている。 また、国内外で活躍をする卒団メンバーがソリストやゲスト奏者として共演・指導をするなど、人材の循環が図れている。</p>	◎	◎
--	--	----------	---	---	---

		<p>3 広報・普及事業等</p> <p>(1)薄井バレエコレクションの管理・活用</p> <p>(2)情報コーナーの開設・運営</p> <p>(3)多面的な広報宣伝活動</p> <p>(4)自主媒体による展開</p> <p>(5)芸術文化センター会員制度の運営</p> <p>(6)普及事業の実施及び舞台技術 関係者、アートマネジメント人材の育成</p> <p>(7)その他</p>	<p>【実績】</p> <p>薄井バレエコレクション(約 6,500 点)の概要や展示情報をインターネットで配信するとともに、主催事業と連動した情報コーナーでの展示を実施。令和5年度は、国内外の美術館や研究者から作品貸出や画像提供の依頼が多数あった。</p> <p>また、劇場の舞台裏や舞台機構、公演準備作業の様子などを案内するバックステージツアー11回を開催</p> <p>記者会見等による取材誘致、有料広告(紙面広告、交通広告、Web 広告)、共催先等によるプロモーション等多面的な広報宣伝活動展開により芸文センターの認知度向上、新たなファンの発掘・裾野拡大、公演入場券の販売促進を積極的に展開。</p> <p>情報誌「ひょうご舞台芸術」(年2回/各6万部)や「公演スケジュール」(月1回・6000部)の発行、ホームページ、メールマガジン、SNS 等により幅広く情報を発信。</p> <p>芸術文化センター先行予約会員制度(登録無料)会員数 66,403 人(県内 38,602 人、県外 27,801 人[R6年3月31日現在])に会報誌(月1回・全会員あて送付)で、発売情報を案内することにより、発売日初日にチケットの約4割を券売する等、効率的な販売を実現。</p> <p>賛助会員制度(会員企業 16 社[R6 年3月末])の運営や、舞台芸術専門スタッフによる創造活動支援(施設利用者への舞台技術無料指導・支援)等を実施。</p> <p>【評価】</p> <p>薄井バレエコレクション(概要)のインターネット配信、主催事業と連動した展示(常設展・企画展)、特別展などの普及事業等を実施し、分かりやすく楽しめる企画によって開かれた事業展開を行った。</p> <p>バックステージツアーでは、11回で638名の参加があり、普段見ることができない舞台裏や舞台機構を案内し、好評を得た。</p> <p>多面的・戦略的な広報宣伝活動を展開した結果、約25.6万枚の券売数に対して券売率は92.2%となった。</p> <p>個別事業への冠協賛のほか、センターの多彩な活動に賛同し支援いただく賛助会員の協力が、事業実施の支えとなった。創造活動支援は、県民の公演の質の向上と施設利用率向上(リピーター確保)に大きく貢献。</p>	◎	◎
--	--	--	---	---	---

<p>利用者満足度調査結果 (アンケート調査)</p>	<p>①観客アンケート (令和5年度実施) 主催事業 61 事業 105 公演) 回答数 5,863 人 ・観客構成 県内:62%、県外:38% ・来場回数 初めて:8.6%、2回目: 5.2%、3~5回目:12.7 %、6~9回目:12.1%、10 回以上:61.4%</p> <p>②施設利用者アンケート (令和5年度実施) 貸館事業(326事業349公演) 回答数 92 団体</p>	<p>【実績】</p> <p>① 観客アンケート(満足層)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演の満足度 98% ・開館日・開館時間 78% ・施設・サービス内容 88% ・施設の清潔さ 94% ・職員・スタッフの対応 91% ・施設全体の満足度 93% <p>②施設利用者アンケート(満足層)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご利用後の全体的な印象 100% ・舞台の大きさ、客席の広さ 99% ・舞台機構、吊りもの、設備・備品 100% ・照明設備 100% ・音響設備 100% ・施設の清潔さ 99% ・開館日・開館時間 95% ・舞台スタッフの対応 100% ・フロントスタッフの対応 98% ・申込・打合せ・公演当日の対応 95% ・今後、ホールを利用したい 99% <p>(R5年度施設利用者アンケートより)</p> <p>【評価】</p> <p>①観客アンケート</p> <p>「公演満足度」は 98%を超え、県民から非常に高い支持・共感を得ることが出来た。「施設全体の満足度」は 93%の方々が満足している。観客構成については、県内居住者が観客の中心(61.8%)となっており、県民のためのパブリックシアターとして支持されている。</p> <p>また、来場回数が「初めて」「2回目」の観客が 13.8%を占めるが、「10回以上」の観客も61.4%にのぼり、新たなファン層を発掘し続ける一方で、センターを支える熱心なファンも定着し、顧客層の継続的な拡大と獲得に成功</p> <p>(R5年度アンケートより)</p> <p>②施設利用者アンケート</p> <p>満足度は「施設の清潔さ」99%、舞台スタッフの対応」100%、「フロントスタッフの対応」98%、「申込・打合わせ・公演当日の対応」95%、「舞台機構、吊り物、設備・備品」「照明設備」「音響設備」「ご利用後の全体的な印象」100%、「ハード面・ソフト面において満足度はほぼ10割と、非常に高い評価を受けている。ホールを利用すればするほど、使い勝手のよさを体感でき、さらにニーズが高まるという傾向も見られる。(R5年度アンケートより)</p>	<p>◎</p>	<p>◎</p>
---------------------------------	---	--	----------	----------

利用状況	利用者数	総来館者数 66.3 万人[前年度:63.3 万人]	<p>【実績】総来館者数約 66.3 万人 (うち公演入場者数約 44.7 万人。その他、各ホール公演出演者・スタッフ、リハーサル室・スタジオ利用者、公開リハーサル入場者、各種イベント参加者など)</p> <p>【評価】 対令和元年度は 94.1%、対前年は 104.8%となり、来館者数は戻りつつある。</p>	◎	◎
	施設稼働率	ホール稼働率 95.7% [前年度:95.7%]	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大ホール:97.8% ・中ホール:94.4% ・小ホール:98.7% <p>【評価】 貸館もあわせたホール利用率で平均 95%を超える水準まで戻った。本格的な舞台芸術劇場としての存在感を県内外にアピールするとともに県民の多様な創造活動の発表の場を提供することができた。</p>	◎	◎
収支状況	収支計画と実績	<ul style="list-style-type: none"> ・総費用 28.0 億円 ・総収入 28.0 億円 (事業収入(自主財源含む)10.5 億円、県補助金(事業基金)3.5 億円、県補助金(一般財源)5.6 億円、県指定管理料等 6.3 億円、施設使用料等収入 2.1 億円)	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総費用 30.4 億円 ・総収入 30.2 億円 (事業収入 12.6 億円、県補助金(事業基金)3.5 億円、県補助金(一般財源)5.6 億円、指定管理料等 6.4 億円、施設使用料等収入 2.1 億円) 収支差 △0.2 億円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	電気一括入札等による光熱水費の削減 ネーミングライツ導入による財源の確保	<p>【実績】 光熱水費 24,025 千円の不足 (実績 122,541 千円-予算 98,516 千円) ネーミングライツ収入(県の取組):行革取組として H20 より募集、年間 0.5 億円(うち 0.25 億円はセンター事業基金に積立)</p> <p>【評価】 燃料高騰による電気・ガス料金値上げの影響を受けながらも、経費削減と施設使用料の確保に努めた。 ネーミングライツ収入のうち、センター事業基金積立分は、大型公演の財源として確保している。</p>	◎	◎

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	第3者を含む運営委員会を設置し意見を運営に反映	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回経営会議を開催し、重要事項の決定のほか、各課の課題を共有 ・コロナ対策、安全衛生、ひょうごプレミアム芸術デーなど、テーマ毎に委員会やワーキングを設けて中堅・若手職員を中心に議論し、館の方針決定に寄与 ・設備・警備、清掃、舞台、フロント等の各委託業者から毎日報告を受けて状況を把握。また、定例委託会議を開催し、情報交換及び指示 ・空調・警備等の設備の定期的な保守・点検等により、来館者に常に快適な劇場環境を提供し、芸文センターへの高い信頼を確保 ・近隣住民へ毎月の公演情報を連絡するなどして、近隣との良好な関係の構築 <p>【評価】</p> <p>日々の課題へは各担当課で即時対応、重要案件については経営会議に諮るなど適切に対応した。また、運営委員会の開催のほか、専門家を招いて感染症予防勉強会を開催するなど、適宜外部専門家の意見を取り入れ、館の運営に反映させている。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	緊急時対応マニュアル、消防計画に基づき確保(重要案件は経営会議)、機器は定期的にメンテナンス	<p>【実績】</p> <p>消防総合訓練を2回・地震避難訓練を1回実施、各種機器(消防設備、昇降機、舞台機構、照明設備、音響設備等)の定期保守点検</p> <p>【評価】</p> <p>全館を挙げて消防総合訓練を実施。設備等についても信頼のおける専門業者の定期保守点検を計画的に実施し、安全管理を行っている。</p>	◎	◎
	県・関係機関との連携	県芸術文化課、県芸術文化協会本部と随時連絡・連携等する	<p>【実績】</p> <p>毎月の県・協会本部との連絡会議を通して、綿密に情報交換を実施。公立文化施設協議会(県:会長)、公立文化施設協会(全国:理事、全国近畿支部:支部長、阪神:会員)、多面・大規模舞台劇場協議会にも参加し、県内外ホール間の連携を深めた。</p> <p>【評価】</p> <p>県芸術文化課、県芸術文化協会本部と随時連携し、課題に対応した。また、公立文化施設協議会・協会への加盟を通じて他館との連携を深めながら、得られた情報を館運営に活用した。</p>	◎	◎

	業務の再委託の状況	舞台運用業務、リハーサル室管理業務及び施設利用相談等業務、フロント業務及びチケットオフィス業運用務、建物設備・警備・入出者対応業務、クリーンキープ・植栽・楽屋機能維持業務等	【評価】 各社とも高い職業意識と専門性を併せ持ったプロフェッショナル集団である。これら委託業者の仕事ぶりや業績がセンターの高い評価に貢献しており、民間活力を十分に活用できている。	◎	◎
--	-----------	--	---	---	---

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

<p>令和5年度は、主催事業数・公演数の合計が 162 事業 310 公演となり、令和元年度の約 97%まで回復した。また、貸館についても、令和2年度の 159 公演から令和6年度は 349 公演まで回復した。 (利用料収入: R2→ 47 百万円、R5→156 百万円)</p> <p>令和6年度も、一層の経費削減、適切な設備保守、に努めながら、主催事業・公演数 154 事業 279 公演以上の実施をめざす。</p> <p>また、令和7年度の開館 20 周年に向け、優れた人材の確保・養成、継続的な運営財源の確保、施設・設備の大規模修繕の計画など、中長期的にも安定的な運営体制の充実に努める。</p>

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 芸術文化課

施設名	芸術文化センター	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

令和5年度は新型コロナウイルス感染症の影響が少しずつ緩和され、コロナ前の9割程度にまで来館者数が回復した。芸術文化協会が持つ専門性と蓄積されたノウハウにより、事業計画に基づきつつも機動的・柔軟に対応を行い、効率的で質の高い管理運営が実施されている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 施設・設備の維持管理において、清掃・点検等適切に実施されており、利用者の安全・安心及び快適性が確保されている。
- 施設の稼働率が高く、施設利用者アンケートにおいても高い評価を得ていることから、施設運営の好調さを窺うことができる。
- 芸術監督プロデュースオペラやワンコインコンサート等、多彩な公演事業を実施することにより、舞台芸術ファンの要望に応えるとともにすそ野拡大に努めている。
- 「わくわく Online オーケストラ教室」の配信等、新たな取り組みにより青少年の育成に寄与している。
- 開館から 15 年以上が経過し、施設、設備の劣化が見られるため、今後も引き続き日常の安全点検等を実施し、不具合の早期発見に努められるとともに、次期大規模修繕に向け課題について整理願いたい。
- 少なくないクレーム等へ適切に対応しているが、今後とも丁寧な対応を継続願いたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S			—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和 5 年度 管理運営評価シート

施設名	県立美術館王子分館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃 日常清掃業務・ゴミ処理業務 ・展示室、トイレ、共同部門等 (毎日) 定期清掃業務 ・ワックス塗布、ガラス清掃 (各 1 回/年)	日常清掃業務・ゴミ処理業務 ・展示室、トイレ、共同部門等 (毎日) 定期清掃業務 ・ワックス塗布、ガラス清掃(各 1 回/年) 日常、定期清掃等を実施し、清 潔な施設維持に努めた。	◎	◎
	設備保守管理 昇降機設備・自家用電気工作 物(1 回/月) 消防設備(2 回/年) 空調設備・空調機自動制御機 器(2 回/年) 駐車場管理(24 時間電話対応・ 1 回/年) 自動扉保守点検(2 回/年) 重量シャッター保守点検 (1 回/年)	昇降機設備 / 自家用電気工作 物(1 回/月) 消防設備(2 回/年) 空調設備・空調機自動制御機 器(2 回/年) 駐車場管理(1 回/年) 自動扉保守点検(2 回/年) 重量シャッター保守点検 (1 回/年) 各設備について、法定点検を 含め保守点検を定期的に行 い、必要な補修等を行うなど適 切に維持管理を実施した。	○	◎
	植栽管理 芝生手入れ(4 回/年) 害虫防除(2 回/年)、雑草発芽 抑制剤散布(3 回/年) 樹木手入れ(1 回/年)	芝生手入れ(4 回/年) 害虫防除(2 回/年)、雑草発芽 抑制剤散布(3 回/年) 樹木手入れ(1 回/年) 造園業者による植栽管理を実 施し、美観維持に努めた。	○	◎
	警備 常駐警備業務(設備運転)・巡 回業務 (美術館部門は 24 時間警備) 機械自動警備(夜間・休日含 む)	常駐警備業務・巡回業務 (1 日 5 回以上)と機械自動警備 (夜間・休日含む)の実施。 (美術館は 24 時間警備、キャリ ー警備は設備運転兼務) 警備員と機械警備の組み合わ せにより、効率的に適切な安全 保安業務が実施できた。	◎	◎

	小規模修繕	施設内不良箇所の修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・王子分館の受電ケーブルの緊急交換工事 ・原田の森ギャラリー本館玄関前の外構補修工事 ・別館エレベーターの制御基盤の取替工事 ・横尾忠則現代美術館の北壁補修工事 <p>利用者の安全と快適性の確保、美術品の適切な保管のため必要な修繕等に努めた。</p>	○	◎
	法定点検の実施	法定点検を実施し、適正な保全業務を行う。	<p>消防点検(機器点検(2回/年)・総合点検(1回/年))</p> <p>昇降機定期点検(1回/年)</p> <p>自家用電気工作物(月次点検・精密点検(1回/3年))</p> <p>空気環境測定(6回/年)</p> <p>水質検査・雑排水槽清掃・害虫駆除・IPM防除(2回/年)</p> <p>貯水槽清掃(1回/年)</p> <p>雑排水管洗管(2回/年)</p> <p>法令等に基づく定期検査を実施し、適正な保全を図った。</p>	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	<p>休館日</p> <p>①原田の森ギャラリー 12/29～1/3、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>②横尾忠則現代美術館 年末年始、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、展示替期間</p> <p>開館時間</p> <p>①原田の森ギャラリー 午前10時～午後6時</p> <p>②横尾忠則現代美術館 午前10時～午後6時</p>	<p>休館日</p> <p>①原田の森ギャラリー 12/26～1/3、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)</p> <p>②横尾忠則現代美術館 12/26～1/24、毎週月曜日(祝日の場合は翌日)、展示替期間(5/7～25、8/28～9/14)</p> <p>開館時間</p> <p>①原田の森ギャラリー 午前10時～午後6時</p> <p>②横尾忠則現代美術館 午前10時～午後6時</p>	◎	◎

公共性・公平性の確保	すべての来館者への平等・公平・公正な利用機会の確保	<p>展示室はギャラリー運営会議で承認(年3回開催) 会議室は先着予約 ホームページで空室状況を発信。</p> <p>利用者提出の利用計画書を踏まえて日程調整を行い、原田の森ギャラリー運営会議に諮り承認することにより、公平な運営に努めた。</p>	○	◎
各種事業・プログラムの実施状況	貸し展示室・貸し室業務 各新聞社等への情報提供、インターネット等活用による広報	<p>広報活動の充実(展覧会案内の作成) インターネットを活用した積極的な情報発信 近隣の公共施設や地域の掲示板及び公共交通機関と連携した広報活動</p> <p>展覧会案内の配布、ホームページ情報の随時更新により貸し館業務の充実に努めた。</p>	◎	◎
利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケート調査の実施	<p>ギャラリー展示室利用者、美術館の展覧会入場者それぞれにアンケートを実施。 展示室利用者では「非常に満足」「満足」が98%、展覧会観覧者では「満足」「どちらか」と満足」が97%と高い評価を得ている。 また、利用者の声を管理運営に反映させるよう努めた。</p>	◎	◎

利用状況	利用者数	<p>前年度の利用者数を維持しつつ、さらに増加を図る。</p> <p>[前年度] 全体年間利用者数 189,208 人 原田の森ギャラリー 131,533 人 横尾忠則現代美術館 57,675 人 (内 展覧会入場者 35,140 人)</p>	<p>全体年間利用者数 190,627 人 原田の森ギャラリー 131,909 人 横尾忠則現代美術館 58,718 人 (内 展覧会入場者 33,689 人)</p> <p>ギャラリー来館者は、概ね新型コロナウイルス禍前の水準に回復。造形芸術の発表、鑑賞、交流の場の役割を果たした。</p> <p>美術館は、展覧会入場者数が前年度を若干下回ったが、年3本の展覧会がすべて入場者数1万人超と好調を維持できた。</p>	◎	◎
	施設稼働率	<ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室の平均利用率 85% ・展示室全体の平均利用率 85% ・施設全体の平均利用率 65% <p>[前年度] <ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室 88.7% ・展示室全体 89.4% ・施設全体 75.8% </p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本館展示室 92.1% ・展示室全体 91.5% ・施設全体 75.9% <p>展示室の利用(率)はほぼ上限であり、この状況を維持できるよう努める。</p>	◎	◎
	収支計画と実績	<p>R6 計画</p> <p>収入 179,001 千円 <内訳> 指定管理料 109,624 利用料収入 25,564 補助事業収入 43,813</p> <p>支出 179,001 千円 <内訳> 人件費 50,026 管理費 85,162 補助事業費 43,813</p>	<p>R5 実績</p> <p>収入 256,377 千円 <内訳> 指定管理料 124,524 利用料収入 43,317 運営収入 133 ショップ収入 14,121 展覧会配分金・入場料 15,749 補助事業収入 53,329 助成金 4,000 雑収入 1,204</p> <p>支出 256,377 千円 <内訳> 人件費 51,022 管理費 133,798 補助事業費 66,684 消費税 4,873</p>	◎	◎

収支状況	経費節減に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務経費の見直し ・光熱水費の削減 ・節電による環境負荷の低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託業務経費の見直し ・光熱水費の削減 ・室内温度管理の徹底 <p>美術館の展示替え期間を休館とし、委託業務(経費)の削減を図った。 また、空調機器の部品交換・清掃等きめ細かいメンテナンスにより、光熱水費削減に努めた。</p>	○	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	アンケート調査の実施等	利用者からの苦情・要望や、敷地内の迷惑行為などに適宜対応するとともに、職場ミーティングで職員全員に周知し同様な案件に迅速・的確に対応できるように努めた。	○	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡網整備 消防訓練の実施	緊急連絡網の整備 警備会社との連携 消防訓練の実施	○	◎
	県・関係機関との連携	県や関係課との緊密な連絡・協議のもとで施設を運営	展覧会の記者発表、ひょうごプレミアム芸術デーの実施、予算執行管理などについて、県所管課との連携を密にしながら適切な運営を行った。 また、兵庫県立美術館とは相互割引の実施など、関係施設とも連携を図っている。	○	◎

	業務の再委託の状況	施設の清掃、警備、設備管理、受付業務等の再委託	(指名競争入札) ・清掃警備等設備管理業務 ・空調設備保守点検 (見積り合せ) ・消防設備点検 ・庭園維持管理業務 ・重量シャッター保守点検 ・自動扉保守点検 ・自家用電気工作物保守点検 (随意契約) ・機械自動警備 ・昇降機保守点検 ・駐車場運営管理業務 ・ショップ・レジ保守点検 (プロポーザル) ・受付・監視・ミュージアム ショップ販売業務 業務内容に応じて適切な方法により業者を選定した。また、長期継続契約により経費の節減を図った。	◎	◎
--	-----------	-------------------------	---	---	---

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

維持管理業務においては、利用者の利便性・安全性を重視し、警備員を適切に配置し、必要な保守点検や修繕を実施することにより、良好な環境の保持に努めた。

事業運営面では、利用促進を図るため、原田の森ギャラリーではタイムリーな情報提供や丁寧な接客を心がけており、横尾忠則現代美術館では SNS を用いた情報発信に力を入れている。ギャラリー利用率や美術館入場者数ともに、良好な管理運営ができていると考える。

光熱費や業務委託費等が上昇していることから、できるかぎり経費の削減に努めつつ、県所管課とも協議しながら必要な施設・設備の補修等を実施し、安全で快適な施設運営に努める。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部芸術文化課

施設名	県立美術館王子分館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県芸術文化協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- 芸術文化協会が持つ専門性と蓄積されたノウハウにより、事業計画に基づいた、効率的で適切な管理運営が実施された。
- コロナ禍で落ち込んだ施設利用率を大きく回復させ、ほぼ例年並みに戻っている。利用者アンケートにおいても高い評価を得ていることから、施設運営の努力と好調さを窺うことができる。
- 施設・設備の維持管理においても、日常の清掃・点検が適切に実施されており、利用者の安全・安心及び快適性が確保できた。
- その他利用促進と経費削減につとめることで、収支安定を図った。
- 美術館事業でも、展覧会関連事業としてアーティストトーク、ミニライブ、オープンスタジオコンサートなどの多彩なイベントを企画実施するなど、入館者数増加への努力が評価できる。
- SNS の更新や、動画配信にも取り組み、効果的な情報発信に取り組んでいる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- 利用者アンケートにおいても概ね高い評価を得ており、施設の維持管理状態や利用者へのサービス提供は良好と考えられる。
- 引き続き、安全・安心かつ快適な施設の提供と利用者サービス向上に努められたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	ひょうご女性交流館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	一般財団法人兵庫県婦人会館	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃、臨時清掃	日常清掃(毎日)、臨時清掃(年2回)	◎	◎
	設備保守管理	空調・受水槽・消防・電気・エレベータ	年2回～6回実施	◎	◎
	植栽管理	施肥、剪定	年1回	◎	◎
	警備	会館時は職員、閉館時は機械	毎日実施	◎	◎
	小規模修繕	緊急性のあるものから順次	必要に応じて随時実施	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備、害虫駆除等	年2回実施	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	日祝・年末年始休館、9時～21時開館	規程どおり実施	◎	◎
	公共性・公平性の確保	設置管理条例を遵守	規則等を遵守	◎	◎
	各種事業・プログラムの 実施状況	該当なし			
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	年1回実施	満足が87%	◎	◎
利用 状況	利用者数	前年度並み [前年度:5,968人]	7,113人	◎	◎
	施設稼働率	前年度並み [前年度:70.9%]	74.0% (217日/293日)	◎	◎
収支 状況	収支計画と実績	利用料収入 4,658千円	利用料収入 4,624千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	事業費支出の削減	光熱水費、事務費の節減	◎	◎
運営 体制	苦情要望等の対応体制・ 内容	窓口職員が対応	丁寧な対応を心がけている。	◎	◎
	危機管理体制の確保	緊急連絡先、委託先の把握	窓口に貼付、関係者に配布	◎	◎
	県・関係機関との連携	県所管課との連携	連携体制を築いている。	◎	◎
	業務の再委託の状況	清掃、設備保守、警備等を委託	専門業者に業務委託	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

計画どおり実施できているが、県の公共施設予約サービスやeメールを利用した予約受付の促進による利用者確保及びこまめな節電等による経費節減に努めていく。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部男女青少年課

施設名	ひょうご女性交流館	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	一般財団法人兵庫県婦人会館	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用者へのアンケートによる職員・スタッフの対応の満足度調査では、86.8%がほぼ満足の評価を受けているほか、こまめな消灯等による光熱水費の削減など経費節減に努めている。また、(一財)兵庫県婦人会館は、県内最大の女性団体である兵庫県連合婦人会と非常に密接な関係性を有するとともに、兵庫県栄養士会や兵庫県いずみ会等その他の女性を中心とする有力団体とも強い関係性を有しており、女性の活動の活性化、団体間の連携強化等が図られ、多くの女性団体が利用し様々な活動を展開することにより、女性の社会参加の促進に向けた活動が行われている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

施設稼働率を上げる必要があると考えられるため、県民に広く広報するなど会館利用促進を図る取組を実施するよう指導。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	いえしま自然体験センター	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(一社)いえしま自然体験協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃 宿泊施設利用後の点検／毎回 浴室清掃／毎回 浴槽循環器の清掃／月2回(繁忙期) 浴槽循環器の清掃／月1回(閑散期) 管理棟周りの清掃／毎日	小まめな点検・清掃を実施する事により、極小規模の不具合(ロッジ玄関の歪み・網戸の破れ)等は次の利用者の使用前には復旧する事が出来た。	◎	◎
	設備保守管理 ロッジ汚水経路の保守管理/年2回	汚水路の隙間より植物の根が侵入し排水路が塞がり、トイレの排水が詰まることを予防した。年々、根の侵入箇所が増えている為点検回数を増やし小まめな除去を行った。	◎	◎
	植栽管理 工作物に接触する樹木及び害獣(猪)対策を兼ねた開けた空間を保つ為の伐採年/都度	工作物の維持保全及び利用者が安全に活動できるように接触の恐れのある樹木の剪定を行った。	◎	◎
	警備 場内巡視 毎日2回 害獣(猪)対策	場内巡視 毎日2～3回 台風や大雨などの非常時には、その都度職員全員で巡視。近年増加している猪の捕獲及び駆除を行った。	◎	◎
	小規模修繕 ボイラー修理 浄化槽階段修理	温度センサー及び三方弁取替工事の実施 経年劣化による浄化槽側壁設置の階段修理の実施	◎	◎
	法定点検の実施 自動火災受信盤等の点検	管理棟の火災受信盤の動作確認及びロッジ等の各施設への放送設備点検・消火器の使用期限の点検を実施し使用期限間近の消火器の交換を行った。年1回	◎	◎
運営業務 開館日・開館時間等	年中無休 365日宿直の実施	年中無休 利用者が安心・安全に利用できるよう365日宿直体制を実施した。	◎	◎

	公共性・公平性の確保	誰もが利用できる環境整備	高齢者や乳児、身体障害者が利用しやすくなるよう、来島・離島時には車両での送迎や荷物の運搬の協力を行った。 また、ピクトグラムによる案内板の設置を行った	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	【指定管理業務】 課題を抱える青少年への事業を実施 働くことに悩みをもつ若者への就労支援を実施 【自主事業】 自然の素晴らしさや、地球環境の大切さを伝える	【指定管理業務】 ネット環境から離れて、自然体験をとおして仲間とのふれあいや人とのつながり、インターネットとの上手な付き合い方を考えるきっかけとなる事業を実施した。 就労支援を実施し、1名の受け入れを行った。 【自主事業】 家族・小学生・中学生など、様々な年代に対し18の事業を実施した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	別紙アンケート集計のとおり	別紙アンケート考察のとおり	○	○
利用状況	利用者数	令和5年度実績19,235人 [前年度:16,391人]	新型コロナウイルスが5類に移行され、姫路市の自然学校説明会に参加し、施設のPRを行い自然学校等の利用が増加した	○	○
	施設稼働率	令和5年度実績 16.1% [前年度:12.9%] ロッジ稼働率	利用者数の増加に伴い、施設の稼働率も上昇した。	○	○
収支状況	収支計画と実績	令和5年度実績 753千円 令和4年度実績△4,293千円	利用者増及び経費節減の実施による	○	○
	経費節減に向けた取組	電気・水道の節約	冬季等の利用の無い施設の電力ブレーカーを落とす事により電力削減を行った。 カヌー・カヤックの使用後の洗浄の再にもまめな止水に努め水道使用量の減少につながった。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者情報の共有	毎朝、出勤職員全員で利用者の情報共有を行い利用者の情報を共有した。	○	○
	危機管理体制の確保	地元消防署との連携確保	地元消防署員の方に来島頂き、施設内の地理の把握や、傷病者の搬送方法の確認を行った。	◎	◎

	県・関係機関との連携	兵庫県 兵庫県青少年本部 坊勢消防署	各関係機関とは緊急連絡網の 情報を交換 消防署とは施設内の地理の把握や、傷病者の搬送方法の確認を行った。	◎	◎
	業務の再委託の状況	該当なし			

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

新型コロナウイルスが5類感染症に移行され、利用者の増加となったが、施設内の消毒等を継続して行い、安全・安全委に配慮した結果、クラスターの発生も無く運営することが出来た。

課題として、令和5年12月末をもって坊勢島～いえしま自然体験センターへの不定期航路がサービス終了となり、いえしま自然体験協会が新たに不定期航路を開設して利用者を送迎できるよう取り組みたい。

次年度も今までの管理運営に加えて不定期航路の運営にも努力し、利用者の安心・安全を考えた運営を行いたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部男女青少年課

施設名	いえしま自然体験センター	現指定管理期間	令和3年度～5年度(3年間)
指定管理者	(一社)いえしま自然体験協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 限られた予算の中で、利用者の安全確保を第一に考え、緊急修繕等を優先的に実施するなど、施設の維持管理業務は、適正に行われている。
- ・ 姫路市の自然学校説明会に参加し、施設のPRを実施する等、利用者数の増加に努めている。
- ・ ピクトグラムの活用や、動線の工夫、視覚障害者のためのマットの設置等、ユニバーサルデザインの導入を進めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・ 光熱水費の節約の徹底などで経費削減に向けた努力が日常的になされており、今後も引き続き経費節減に努める必要がある。
- ・ 令和5年度の利用者数は前年度より増加しており、今後も引き続き利用者数増加を図る必要がある。そのため、ホームページの充実化や、SNSによる発信、広告・パンフレットの活用等による施設の認知度の向上等に取組む必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	B	B	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立神出学園	現指定管理期間	令和6年度～8年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	施設全体・敷地内の日常清掃・定期清掃(床・窓ガラスなど)を行う。	週2回の定期清掃を清掃業者に委託した。また、年4回、園内美化の日を設け、職員・学園生で敷地内の清掃を行った。	◎	◎
	設備保守管理	園内施設における電気・ガス・給排水・衛生・消防・ボイラー設備等の運転・保守並びに水質・防虫等の衛生管理を行う。	各設備の保守管理を設備業者に委託し、定期的な点検保守を行った。	◎	◎
	植栽管理	園内の植栽管理を行い、学園内の自然環境を整備する。	学園内の除草作業や花壇整備により、園内の美観を維持できた。	◎	◎
	警備	施設全体の警備を行う。	土日・祝日等の休園日の昼間に日直代行員を配置するとともに、夜間の機械警備を外部業者に委託した。	◎	◎
	小規模修繕	施設の老朽化等による不具合・故障箇所の修繕を行う。	経年劣化による故障等について施設内の安全点検を行い、修繕工事を実施したことで、適切に建物を維持管理できた。	◎	◎
	法定点検の実施	必要な項目について適宜点検を実施して、安全に施設管理を行う。	必要な項目の法定点検を実施し、安全な施設管理ができた。	◎	◎
運営 業務	開館日・開館時間等	学園生の宿泊にあわせて年間のプログラム・行事を設定し、日曜日及び土曜日、夏期・冬期休業日以外の日に開館日を設けて業務を行う。	学園生の宿泊にあわせて、国民の祝日に開館日を設定し、振替業務を行うことで、効率的な業務運営ができた。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	学園生を広く募集し、選考を経て入学の許可を行う。	記者発表やホームページ掲載等による広報を通じて学園生を募集した。選考は2次選考まで実施し、外部委員からなる選考会議で入学者を決定し、公正・公平な選考ができた。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	毎日の生活や多彩なプログラムの中で、個々の学園生に適した支援を行う。	個に適した支援、生き方や進路選択の支援、自主性・創造性の伸長の支援、相談を通じ個々の成長支援等多彩な支援を行った。	◎	◎

	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケート調査を実施し、利用者が満足のいく支援を提供する。	各種行事・プログラム等の終了時や学園生活の振り返り等のアンケート調査を実施した。調査結果を分析しながら、満足のいく支援に努めた。	◎	◎
利用状況	利用者数	必要な数の新入生を受け入れる。	令和3年度生(24名入学) 令和4年度生(19名入学) 令和5年度生(17名入学)	△	△
	施設稼働率	—	—	—	—
収支状況	収支計画と実績	R5計画 収入 指定管理料 89,000千円 支出 人件費 70,117千円 その他経費 18,883千円	R5実績 収入 指定管理料 93,436千円 支出 人件費 73,079千円 その他経費 20,357千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	人件費、事務的経費の節約に努める。	各種行事を見直し事務的経費を節約した。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	要望等に対応するため、事業後にアンケートを実施し、参加者のニーズを把握する。	アンケート結果を分析することで、参加者のニーズを把握し、可能な範囲で要望に応えることが可能となった。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害発生時に備え、職員行動マニュアルを作成するとともに消防訓練等を実施する。	職員・学園生を対象に消防訓練等を行うことで、危機管理意識の醸成につながった。	◎	◎
	県・関係機関との連携	通信制の県立高校と連携を行い、高卒資格取得を支援する。	県立網干高校、県立青雲高校等の通信制課程との単位連携による履修単位認定を行い、進学希望者への支援を強化することができた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	運營業務の再委託は行っていない。	—	—	—

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

令和5年度も上記の「実績・評価」のとおり、適正に各事業を執行した。

令和6年度は、令和5年度までの事業実績や評価を踏まえ、引き続き適正な事業執行に努めるとともに、学園生の確保については課題を整理のうえ対策をたてて取り組むこととする。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部男女青少年課

施設名	兵庫県立神出学園	現指定管理期間	令和6年度～8年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 限られた予算の中で、施設の維持管理・運営を適正に行っている。
- ・ 地域貢献・地域交流プログラムとして、ボディーワークやソーシャルスキルトレーニング等、学園生の表現力や協調性、社会性をのばすカリキュラムの提供に努めている。
- ・ 豊かな人生経験を持つメッセージ性の高い外部講師による講演会を実施するなど、学園生の視野を広げ、元気回復の一助となる機会の提供に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・ 安全点検や清掃、植栽管理等への取組みが定期的・計画的に実施されており、今後も継続する必要がある。
- ・ 定員割れが続いている状況のため、入学者数獲得に向けたさらなる取組みが必要である。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
S	S	S	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	こどもの館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目		業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	日常清掃(床面、毎日・毎週・毎月)、定期清掃(窓ガラス・換気扇・照明器具・天井・川池年1~4回)、塵芥集積処理	業務委託している清掃作業員による清掃を実施し、こどもの館の景観を維持することができた。	○	○
	設備保守管理	○冷温水発生機運転管理及び照明機器保守管理(作業員常駐) ○空調等自動制御機器保守点検(総合点検年1回、シーズン切替年2回) ○吸収冷温水発生機保守(冷暖房時1回ずつ、運転休止中の保守年1~2回、伝熱管洗浄年1回) ○エレベーター保守点検(毎日遠隔点検・無人、年4回点検整備) ○自動ドア保守(年4回) ●ばいじん測定(年2回) ●A重油地下タンク点検(年1回) ●消防設備保守点検等(年2回) ●環境維持管理及び測定(浮遊粉塵等測定、飲料水検査、貯水槽清掃、ネズミ等駆除、照度測定) ●し尿浄化槽維持管理(清掃年2回、維持管理年4回) ●自家用電気工作物保守(年6回、年1回)	業者委託により適切に保守管理を実施した。	○	◎
	植栽管理	芝刈り、除草(適宜)	予算削減のため、芝刈り、除草のみ実施した。	△	△
	警備	本館・工作館を夜間等機械警備	左記のとおり実施した。	○	◎
	小規模修繕	経年劣化により設備等の傷みが激しく、これに係る予算が制限されるため、緊急的に必要最小限度で対処。対処できないものは、予算要望による。	スプリンクラー、漏水、空調機等の緊急を要する修繕を実施できた。	◎	◎

	法定点検の実施	<ul style="list-style-type: none"> ●ばいじん測定(年2回) ●A重油地下タンク点検(年1回) ●消防設備保守点検等(年2回) ●環境維持管理及び測定(浮遊粉塵等測定、飲料水検査、貯水槽清掃、ネズミ等駆除、照度測定) ●し尿浄化槽維持管理(清掃年2回、維持管理年4回) 	業者委託により適切に実施した。	○	○
運営業務	開館日・開館時間等	開館日:閉館日(毎週火曜日、月の末日、年末年始等)を除く毎日 開館時間:9:30～16:30	左記のとおり実施した。 ただし、3/4～3/31 指定管理者変更による引継の為、臨時休館(稼働率・92.2%・274日/297日)	○	◎
	公共性・公平性の確保	紙媒体である「こどもの館だより」の配付を取りやめ、HP・SNSによる発信に移行。	FB、Instagram、Lineを配信。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	事業体系表を作成し、それに基づいて各事業を計画	予算と人員が少ない中、職員の創意工夫により、ひこうきひろばの再開など、精力的に活動を展開した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	受付で来館者アンケート用紙を配架	アンケート用紙に記載された意見・希望に対しては迅速に対応	○	○
利用状況	利用者数	164,021人 [前年度:127,286人]	新型コロナウイルスの影響により入館者数は減少したが、徐々に回復傾向にある。	△	△
	施設稼働率	92.2%(274日/297日) [前年度:98.1%・288.5日/294日]	指定管理者変更による引継を除き、開館した。	△	○
収支状況	収支計画と実績	電気代、重油代の高騰により支出が増加	経費の節減及び県からの補助金により収支均衡を図ることができた。	○	◎
	経費節減に向けた取組	各事業を根本的に見直し、事業費の大幅節減を図るとともに、消耗品、事務用品の在庫確認による徹底した節減を行った。	事業費、消耗品費において、経費を大幅に節減することができた。	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	来観者アンケートの意見・要望、電話等での苦情に対して迅速に対応するとともに、職場ミーティングで職員への周知徹底を図った。	来観者の要望・質問等に対して、迅速・適切に対応することができた。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害時等職員行動マニュアルの作成、避難・通報・消火訓練の実施	災害時等職員行動マニュアルを作成・配付し、緊急時の体制を整備した。防犯カメラの設置、職員の巡回等により、不審者対策の強化を継続した。その結果、不審者の出没はなかった。	○	◎

	県・関係機関との連携	桜山公園周辺の 3 館とイベント連携開催を進め、集客率を高める。	コロナ禍の影響により、規模を縮小してイベントを開催するとともに、4 館館長会議により連携を密に行った。	○	○
	業務の再委託の状況	維持管理業務について、適正に業者を選定する。	入札、見積合わせ等により、適正に業者選定を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

今年度は、一昨年度のリニューアル工事による休館とコロナ禍の影響が大きいなか、限られた予算・人員配置の中で、様々なアイデアの提案や工夫を凝らすことにより、親子遊戯室の再開、あそびのひろばの整備、屋内外のサーキット遊びの整備を実施し、コロナ禍前の7割程度まで利用者数が回復した。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部男女青少年課

施設名	こどもの館	現指定管理期間	令和5年度(1年間)
指定管理者	(公財)兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・限られた予算の中で、日常的な見回り業務を実施するほか、清掃や法定点検等を専門業者に委託し実施するなど、適正な維持管理業務に務めている。
- ・コロナ禍の影響が続く中で各種事業が実施されており、大型児童館として適正な運営に努めている。
- ・高校生等を活用した事業の展開など、幼少期から青少年までの健全な成長を促す取組みが実施されている。
- ・SNSによる発信のほか、HPの全面改定により、効果的な広報に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・事業の見直しや消耗品費の管理徹底などで経費削減に向けた努力が日常的になされており、今後も引き続き経費節減に努める必要がある。
- ・令和5年度の利用者数はコロナ禍前の7割程度まで回復しており、今後一層の利用者数増加を図る必要がある。そのため、利用者のニーズに即した多様な施設の活用を含めた事業展開を図る必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	—	—	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が80%超である
A	◎が60%超80%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
B	◎が60%以下であり、かつ△と×の合計が20%以下である
C	△と×の合計が20%超40%以下である
D	△と×の合計が40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立山の学校	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	生徒・職員で定期的を実施し、清潔な環境を維持する	生徒・職員が協力して分担された箇所を丁寧に掃除ができた	○	○
	設備保守管理	消防用設備点検は業者委託を継続する	法令に従い点検を行い、不良箇所は修理した	◎	◎
	植栽管理	生徒実習の中での実施を計画的に取り入れることにより維持管理に努める	生徒実習を中心として計画的に実施できた	○	○
	警備	舎監による夜間管理に加え、機械警備を業務委託する	舎監と委託警備業者で適切に管理できた	◎	◎
	小規模修繕	寮2階廊下の床長尺シートに張替、食堂その他照明のLED化を行った	寮の生活環境がよくなり、LED化で節電にも貢献した	◎	◎
	法定点検の実施	消防設備点検を実施	適正に管理し、消防署へ報告書を提出した	○	○
運営 業務	開館日・開館時間等	チャレンジ体験・冬の体験入学会・中学生対象「トライやる」チャレンジ体験を実施。また、保護者を交えて本校で学校説明を行う。	本校で体験したことにより、入学に対する不安が取り除けた また、校長が関係箇所を訪問し対面で説明することにより施設に対する理解が深まった	◎	◎
	公共性・公平性の確保	記者発表や広報活動により生徒を募集し、選考委員会を開催することにより適切に生徒を選考する	記者発表や広報活動により、広く生徒募集の周知ができた 生徒の選考は、選考委員会により適切かつ公平に行った	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	生徒や学校の活性化のための支援プログラムを展開する	コロナ感染症が第5類に分類されたことにより、通常のカリキュラムに戻し、7様々な体験活動を通じてより社会性を身につけることができた	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	修了時に保護者へアンケート調査を実施する	保護者の100%が山の学校に入学させて良かったと感じており、満足度の高い結果を維持できている	◎	◎
利用 状況	利用者数 20名の定員を確保する [前年度:4人]	R3年度 6名入学(修了生 5名) R4年度 4名入学(修了生 4名) R5年度 6名入学(修了生 6名)	△	△	

	施設稼働率	生徒の夏季休業中に県の他の施設からの見学や学校説明会会場として開放する	生徒休業日に研修会や施設見学を受け入れた、また、アルバイトのない在校生を随時受け入れた	○	○
収支状況	収支計画と実績	前年度実績 R3 実績 収入 指定管理料 29,004 千円 支出 人件費 18,948 千円 支出 その他経費 10,056 千円	今年度実績 R4 実績 収入 指定管理料 27,377 千円 支出 人件費 18,022 千円 支出 その他経費 9,355 千円	◎	◎
	経費節減に向けた取組	人件費、事務経費の節約に努める	出張は、公用車を活用することにより旅費を節約した	◎	◎
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	修了式後アンケートを実施し、生徒や保護者のニーズを探る	アンケート結果を参考に生徒募集等に活用した	○	○
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアル点検により問題点を探る	避難訓練、交通安全講習等の実施により危機管理意識向上を図った	○	○
	県・関係機関との連携	西播磨県民局のイベントに出店する 県施設の環境整備を行う	イベントブースでの展示を行い県民にPRできた 各施設の伐木、草刈りを実施し、生徒の活躍の場を与えることができた	◎	◎
	業務の再委託の状況	—	—	—	—

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- 施設管理については、概ね良好に実施できている。
- 毎年度入学者が少ない状況にあるため、地道に広報活動に力を入れた結果、令和6年度入学者が9名になった。令和5年度は、全員終了することができ、チャレンジ生が本科入学で経験を生かした学校生活を送ろうとしている。
- 今後は、潜在的な利用希望者へインターネットを活用した広報活動等をしていく。が必要と考える。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部男女青少年課

施設名	兵庫県立山の学校	現指定管理期間	令和5年度～7年度(3年間)
指定管理者	公益財団法人兵庫県青少年本部	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

- ・ 限られた予算の中で、施設の維持管理・運営が、適正に行われている。
- ・ 地域貢献・交流プログラムとして、里山保全活動や地域施設を利用したの森林学習など、生徒の表現力や協調性、社会性をのばすカリキュラムの提供に努めている。
- ・ 地域交流活動を通して、生徒のコミュニケーション能力の向上や自己肯定感を高める機会の提供に努めている。
- ・ 保護者アンケートの結果、山の学校に入学させて「良かった」との回答を全回答者より得られた。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

- ・ 安全点検や清掃、植栽管理等への取組みが定期的・計画的に実施されており、今後も継続する必要がある。
- ・ 保護者アンケートの結果、山の学校での体験が子どもの成長に「役立っている」との回答を全回答者より得られたにもかかわらず、定員割れが続いている状況のため、入学者数獲得に向けたさらなる取組みが必要である。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B			—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	県立文化体育館(神戸常盤アリーナ)	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持 管理 業務	清掃	定期清掃、清掃箇所の優先順位等のマニュアルを基本として実施しており、必要があれば臨機応変に対応する。これにより、施設の美化及び利用しやすい環境、利用者満足の向上に努める。	日常清掃は、設備維持管理担当会社と障がい者自立支援事業との連帯協力に加え、休館日を利用した定期清掃を計画通りに実施している。イレギュラーな課題については、作業シフトの見直しを行い対応している。	◎	◎
	設備保守管理	日々の施設巡回、法定点検、保守点検を確実にを行い、施設の安全を保つことにより、利用者の皆さまに安心して利用していただける環境を維持する。	点検による不備、不具合箇所の一覧表を作成し、危険性、必要性、費用といった項目を総合的に判断して優先順位をつけて対応している。一覧表については、月次報告の一部として提出している。	○	○
	植栽管理	植栽の定期的剪定、施設内外の美化に努め、景観を含めて利用者、地域住人が快適に過ごせる環境づくりを実施する。	施設スタッフが、空き時間を利用して、剪定作業を行っている。雑草除去等比較的危険を伴わない作業については、委託している障がい者雇用団体が実施している。	◎	◎
	警備	館の警備は機械警備にて実施、火災関連については火災報知器を設置、緊急体制、連絡体制を確立する。 施設スタッフによる敷地内巡回を行う。	セコム警備保障による館全体(駐車場含む)の機械警備を実施している。防犯カメラも作動しており、録画の確認が可能。スタッフによる施設巡回も実施している。	○	○
	小規模修繕	設備従業員による日々の巡回点検等で、不具合発生時迅速に対応する。	設備スタッフが施設を巡回し、不具合を発見した場合は修繕を行っている。スタッフでの修繕が不可能な場合は、専門業者に修理を依頼している。	○	○
	法定点検の実施	法令に則って実施する。	法令に則って実施。	◎	◎
運営 業務	開館時間 9:00-22:00 * 日曜日は 9:00-21:00 休館日 毎月第1月曜日 * 祝日の場合は翌日 年末年始 12/29-1/3 * 変更の場合あり	利用者の安全を優先して、左記のとおり運営している。	◎	◎	

	公共性・公平性の確保	老若男女、ハンディキャップ、職業、国籍、LGBT などに関わらず、誰もが生き生きとスポーツを楽しむことができる施設を目指す。	県の条例に則り、公共性・公平性を持って運営している。本館では、サインージによる利用状況の案内を行っている。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	貸館業務を優先し、講座の運営は一般利用者の妨げとならないようにする。共同体の個性を生かした自主事業を積極的に展開する。	スポーツ講座、文化講座を開講している。それぞれ延べ人数で、31,876 人、10,296 人にご参加いただいた。2 月には講座発表会として「フェスティバル」を開催。大規模イベントとして、「震災祈念コンサート」、「音楽の集い」を開催。	◎	◎
	利用者満足度調査結果 (アンケート調査)	アンケートの結果に基づき、可能な案件から対応する。	本館 156 件、スポーツ館 69 件のご意見を回収。内容を確認して、対応可能な案件から随時対応している。	○	○
利用状況	利用者数	全体的な利用者の拡大と並行して、個人利用、専用利用、各種講座それぞれで目標管理を行う。 [前年度:517,158 人]	今年度実績 個人利用 103,292 人 専用利用 356,946 人 講座 44,350 人	○	○
	施設稼働率	一般利用と講座運営のバランスを十分に配慮し、施設全体の稼働率向上を目指す。 [前年度(本館):40.0%] [前年度(スポーツ館)82.7%]	今年度実績 本館: 40.6% スポーツ館: 80.0% コロナの影響も落ち着きが見え出している。	○	○
収支状況	収支計画と実績	収支予算案に基づいた、施設管理運営を行う。	詳細については、収支精算書の通り。	○	○
	経費節減に向けた取組	昨年度、電力会社の変更を行っている。本年度については、スイッチのオン・オフを小まめに対応すること。	電気料金をゼロワットパワーへ変更したことによるメリットは出せている。 不要な電気は消すように運営している。	○	○

運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者アンケートの実施と、「お客様の声BOX」を設置して、迅速かつ誠意ある対応を行う。	アンケート等とは別に、電話等によるお申し出についても対応させていただいた。 給湯室の配管貫通工事を実施し、利用可能とした。転倒防止対策として、アスファルト再舗装を実施。駐車区画の白線を再塗装。	◎	◎
	危機管理体制の確保	平常時、緊急時それぞれにマニュアルを制定し実行する。	年2回消防訓練として、AED・消火器の使い方、避難訓練を実施している。	○	○
	県・関係機関との連携	指定管理受諾者として、各種関係機関と緊密に連絡を取り合い、常に情報を共有する。	情報共有として、県担当部署と緊密に連絡を取るようしている。長田警察署と連携して、交通安全のシュミレーターを設置。県や近隣の学校と連携し、各種イベントを開催。	◎	△
	業務の再委託の状況	共同体内で管理運営業務を完結する	指定管理業務に関しては、共同体で完結しており、再委託は行っていない。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

- 今期前半は、継続して新型コロナウイルスの感染拡大防止を徹底した。1年間を通じて、大きな事故も無く、概ね順調な運営ができたものと思われる。
- コロナ対策と並行して、アフターコロナを見据えて大規模なイベント(音楽の集い、震災祈念コンサート、健康文化フェスティバル等)を開催した。
- 兵庫県で初めて導入される「講座予約システム」を県と共同で開発し、本館講座の運用を行った。この過程を踏まえて、次年度は施設全体でシステムをスタートさせることになる。
- 次年度以降の課題としては、施設の老朽化に伴い、経年劣化による修繕等が判断されている案件に対して、どのように安全性を確保して運営を継続するかという点が最大の課題と認識している。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	県立文化体育館(神戸常盤アリーナ)	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県立文化体育館ファシリティ共同体	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○R4 年度事業収入: 110,489 千円、R5 年度事業収入: 134,889 千円

前年度比較し、事業収入が大幅に増加しており、指定管理者による企業努力が発揮されている点は、評価することができる。

また、定期的な施設点検の実施によって、修繕必要箇所の把握に努めており、利用者にとって快適・安全な施設運営が実施できているといえる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○R1 年度利用者数: 697,934 人、○R5 年度利用者数: 504,588 人

利用者数は、コロナ禍前に完全に回復しているとはいえ、さらに増加の余地があるといえる。そのため、今年度反響のあった事業内容を更に工夫するだけでなく、現状にとらわれない自主事業の実施や、SNS での積極的広報が求められる。

また、施設の老朽化のため、修繕必要箇所も増加傾向にあるが、県との連携をより強化し、早期改善に努めることで、利用者にとって、快適・安全な施設運営を引き続き実施していただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B	B		

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	県立武道館	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	日常清掃・定期清掃により常に清潔な環境が保たれるよう清掃作業に当たる。また、道場床・畳面も、水拭きや清掃を行う。	清掃業務委託により効率的に清掃を行っており、業務委託範囲外は職員が見回りを実施。アンケート調査結果においても、「行き届いた清掃ができています」といった意見を多数いただいた。	○	○
	設備保守管理	当館には、機械空調設備、床転換システム、大型映像装置、畳自動倉庫、可動間仕切り等多くの大型設備について、効率的な維持管理を行う。	業者との保守委託契約により、仕様書に基づき効率的に定期保守点検を行った。さらに、職員による日常点検により、適切な維持管理を行った。	○	○
	植栽管理	広範囲の敷地内の植栽・庭園の管理を行う。	仕様書に基づき、植栽の管理を適正に行った。	○	○
	警備	開館時間中は職員による巡回励行、閉館後は機械警備を行い、常時監視カメラによる警備を行う。	開館時の利用者の安全・安心の確保のため「巡回確認票」を設け定期的な職員巡回の実施、夜間や休館日には飾磨警察に巡回を依頼するなど館の安全体制が図れた。	○	○
	小規模修繕	経年劣化により、設備・備品の修繕が増えて来ているため、適切に小修繕を行う。	R5年度は、県教委との協議により、10件 17,266千円の修繕を行うとともに、3,006千円をその他の小規模修繕として実施した。経年劣化により、小修繕件数は増えてくる事が予想されたが、日常的に館内を巡回し問題箇所の早期発見を行うと共に、適時に小修繕を行って利用者サービスに悪影響がないようにした。	○	○
	法定点検の実施	法定点検ほか、職員による施設、設備、備品の安全点検を励行し、利用者の安全確保を図る。	日常点検と月1回の定期点検により、不具合箇所の早期発見と小修繕による対応が図れた。	○	○

運営業務	開館日・開館時間等	12/28～1/4 の年末年始休館を、12/29～1/3 とする。学校長期休業期間中の月曜日は開館し、また、利用者の要請を受け臨時開館・早朝開館を実施する。	12/28 を開館すると共に、学校の春季、夏季、冬季休業期間中の月曜日は開館し、また大会等開催のため、早朝開館を107日間行った。大会等では利用者からの希望に応じ利用者のニーズに応えることができた。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	予約管理業務においては、公平性・公共性を重視し、各武道団体と連携を図りながら利用調整を行う。	各武道団体と連携しながら、大会規模や公益性を考慮しながら利用調整を適切に行うことで、館の効率的な利用が図れた。また、トレーニング室利用についても、シンコースポーツとの定期的な打ち合わせにより公平に利用できるよう配慮した。また、講座の申し込みに関しては、兵庫県電子申請システムを県下に先駆けて導入した。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	各武道団体との連携のもと各種武道教室や日本の伝統文化をコンセプトにした事業を展開。トレーニングルームでは、多彩なプログラムメニューを準備。	武道教室をはじめトレーニングメニューは利用者から好評を得た。守るべき伝統文化としての武道の普及と、時代に合わせて変化させる各種教室のプログラム内容。この両輪を共同体のシンコースポーツなどと共に上手く展開することができた。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	アンケートによる利用者満足度調査を行い、調査結果を館内で公表するとともに、利用者のニーズを吸い上げ今後の館運営に生かす。	アンケートの結果、81人の意見を集約出来た。調査の結果、館全体の印象において、不満又はやや不満の意見は5%に留まり、74%の利用者に満足・やや満足といった高い評価を受けた。	○	○
利用状況	利用者数	R5 年度当初目標利用者数408,600 人を目指す。 [前年度:351,926 人]	新型コロナウイルス感染症の影響からはほぼ回復し、R5 年度は 412,317 人の利用があり、当初目標を上回った。	◎	○
	施設稼働率	道場は平日午後の稼働率が低いので、利用促進を図る。会議室等諸室の稼働率は向上しているので継続させる。 [前年度:62.8%(道場)]	新型コロナウイルス感染症の影響からはほぼ回復し、道場の稼働率は 65.1%となった。	○	○

収支状況	収支計画と実績	収入・支出共 R5 年度計画 200,165 千円	実績 収入 202,836 千円 支出 202,836 千円 効率的な管理運営により、支出削減を図ることができた。	○	△
	経費節減に向けた取組	適正な冷暖房温度設定の維持。利用後の道場照明のこまめな消灯を行う。	光熱水費や消耗品等の節減に努め、収入の落ち込み以上に支出を押さえることができた。 職員全員がコスト削減意識の取組を行う事により、よりいっそうの経費削減に取り組んだ。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	利用団体に対し、利用前後の打ち合わせ実施等で利用者とのコミュニケーションを図り、巡視を行うことにより、トラブルの未然防止と事案確認、再発防止を図ることができた。 利用者満足度アンケート調査においても、職員の接遇について、79%の利用者から「満足した」、「ほぼ満足」との評価を得た。	○	○
	危機管理体制の確保	緊急時に備え、危機管理マニュアルを整備し、職員研修等で職員が内容把握しておくことで、迅速かつ的確な対応を図る。	日常的・定期的に職員及び委託業者が館内を巡視し、利用者の安全確保及び施設・設備に問題が無いかを常にチェックし保全に努め、職員研修の際にも危機管理について多くの時間を割いている。今後も警察・消防署等と連携を深めながら、危機管理体制の確保に努めた。	○	○
	県・関係機関との連携	館の円滑な運営には県や市等関係機関との連携が不可欠であるため、連携体制を構築する。	県や市との連携はもちろん、日本武道館との共催事業の実施、地元の大学とは事業協力関係などを構築。	○	○
	業務の再委託の状況	専門性のある業務について、再委託を行う。	PC・HP 保守、予約管理システム保守管理については、再委託を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

1 来年度の取組目標

- ・ 新型コロナウイルス感染症も収束したなかであるが、感染防止対策を実施した上で、従来の貸館、自主事業の武道教室等の充実を図り、施設利用者・使用料収入を確保する。また、令和4年度より、毎年開催していた「武道祭」を武道競技団体等の意見を踏まえ、多数の方が参加できる体験型のイベントに見直し実施したが、非常に好評だったことから令和6年度も内容に再検討を加えながら実施する。
- ・ 姫路市まちづくり振興機構と緊密な連携を図るとともに、当該イベントに参加して武道振興に努める。
- ・ 「姫路観光ナビ ひめのみち」を活用して外国人を含む旅行者向けの日本文化・武道の体験を柱とした武道ツーリズム企画を実現するため、JTB及び姫路観光コンベンションビューローとの協議を開始し、モニターツアーも実施する。
- ・ 兵庫県立大学環境人間学部食環境栄養課程との協議を開始し、食・栄養に係るセミナーやイベント等の企画、アスリートフードメニューの開発を実現する。
- ・ 武道をはじめとするスポーツ振興や、参加者の裾野を広げ、参加者相互の交流促進を図る新規事業を検討し、特にキッズスポーツデー、文化事業を含めた新規事業や既存事業の再構築を検討する。
- ・ 施設維持管理業務においては、職員による日常清掃、設備点検、植栽管理、施設巡回等に努め、安全で快適な施設管理・運営を行い。また、施設運営の状況を的確に把握し、職員による日常的な部品交換や計画的な小修繕に取り組み、事故のない施設運営を継続して実施する。

2 課題

- ・ 施設・設備の老朽化対策について
開館後20年以上を経過し、施設の至る所で老朽化が見られるため、兵庫県県民生活部スポーツ振興課と協議しながら施設・設備の改修、修繕を実施する。
- ・ 利便性・サービス向上について
全国でも珍しい、武道の普及・振興のために設置している「展示・情報コーナー」に武道功労者表彰・武道優良団体表彰の受賞者を顕彰する等、展示・情報コーナーの見直しに着手する必要がある。収蔵しているビデオについてもVHSであり、現代のニーズに合っていないことから総合的なリニューアルが求められている。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	県立武道館	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	兵庫県スポーツ協会武道館グループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

○R4 年度利用者数: 351,926 人、○R5 年度利用者数: 412,317 人

新型コロナウイルス感染症の影響が落ち着き、利用者数は、前年度と比較し、大幅に改善している。
また、イベント内容の見直しも随時行っており、武道だけではなく、日本の伝統文化教室や、トレーニングルームでの多彩なプログラムメニューなど、利用者満足度の高い事業を実施している点は、評価することができる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

道場については、土日祝と平日夜間の稼働率は、高い状態が続いているが、その他の時間帯については、低調な稼働率が続いている。そのため、既存の自主事業にとらわれない新たな自主事業を実施や、SNS などを利用した積極的な広報活動を行うことにより、稼働率向上に努めていただきたい。

また、収支についても指定管理者に自己負担が発生している状態が続いており、収支計画を見直す必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B	B		

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年度～6年度(5年間)
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持管理業務	清掃	<p>建物を常に清潔な状態に維持し、快適性を高めるため日常清掃・定期清掃・臨時清掃を計画的に実施する</p> <p>■担当者を適正に配置し、管理水準に沿った業務を遂行した。また、建物全体の窓ガラス清掃及び各体育室の床におけるワックスがけを臨時で行った。</p> <p>■管理水準書に沿った実施を行った。水準にはないが定期清掃として3～6階部分の窓ガラス清掃も実施した。</p> <p>アンケートでは清掃について99%満足と評価頂いた。</p>	◎	◎
	設備保守管理	<p>電気・水道・消防設備、浴室管理、体育施設及び備品、研修・宿泊施設などの点検並びに修繕の実施</p> <p>■点検保守を適切に行った。</p> <p>本年度は冷温水機周りの不調が多かったが早急な修繕対応によりお客様へのご迷惑はなかった。</p> <p>■大きな事故もなく、ご利用者様からも好評の声を多くいただいている。</p> <p>アンケートでは設備機器については利用者からは96.2%満足の結果を頂いた。</p>	◎	◎
	植栽管理	<p>施設内の草刈り、高木の剪定、雑木の伐採</p> <p>■施設職員等によって随時、草刈りを実施した。</p> <p>■整った状態を維持できており、手入れも通常対応で充分であった。</p>	◎	◎
	警備	<p>利用者の安全を第一に考え、施設内外の安全確保と危険予知・早期発見に努める</p> <p>■施設の要所に設置した12台のカメラにより24時間監視を行うとともに、夜間・休館日は自社の警備員を配置し、施設・利用者の安全確保に努めた。</p> <p>■熟練された警備員の配置を行うとともに、事務所スタッフの安全研修の数をを行ったことで、事故等の対応が素早くなった。</p>	◎	◎
	小規模修繕	<p>機能、性能の劣化を踏まえ、修繕計画の策定及び早期に対応策の検討を行い、必要な修繕につい</p> <p>■各種劣化による部品交換等の修繕を多く行った。耐用年数を整理し、先回り点検も並行して実施</p>	◎	◎

		ては速やかに実施する	した。 ■本社の専門スタッフが修繕計画を策定し、計画的かつ迅速な補修・修繕を行い、より安全に使用することが出来る状態になった。		
	法定点検の実施	年間作業計画書通り実施した	■計画書の通り実施を行った。	◎	◎
	その他	利便性向上	■お客様からの要望箇所を重点に作業を行った。職員用駐車場のライン引きは大会関係者などの方も利用が出来るように整備し駐車場の台数アップにつとめた。 ■利用者から喜びの声を多数いただき、利用者サービスの向上を実現することができた	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	休館日：月曜及び 12月28日～1月4日	■計画書の通り	◎	◎
	公共性・公平性の確保	利用するすべての人が困難なく快適に利用できる仕組みづくりやスタッフへの教育を徹底することで「公」を確保する	■大会等の優先予約に関しては幅広くご希望をお聞きし、重なる部分に関しては抽選(本年度は1回実施)とした。 ■平等利用の確保に努め、利用者同士の情報交換も促すことで、抽選結果の納得感を得ることが出来ている。	◎	◎
	各種事業・プログラムの実施状況	県民のスポーツの振興及び健康増進を図り、様々なライフステージに合わせた多種多様な事業プログラムを企画・運営する	■講座事業、ケンソウ杯、走り方教室、JAL そらエコ教室、サマースクール、クリスマスイベント、しめ縄づくり、県総ロゲイニング、無料開放等、スポーツ婚活、生前整理・遺品整理セミナーなど多種多様な事業を行った。 ■例年のイベントに追加し、JAL そらエコ教室や生前整理・遺品整理セミナー・無料開放でのバルーンアートや防災事業など新規イベントや新規教室など開催し利用者満足度の向上に貢献した。	◎	◎
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	宿泊利用者や自主事業参加者にアンケートを実施し、利用者及び参加者のニーズ把握に努める	■ご意見箱の常設を行うとともに、宿泊利用者からは通年のアンケートを、自主事業参加者にはその都度アンケートを取った。 ■特にスタッフ対応に好評を得ることができています。また、いただいたご意見へのお返事を掲示することで、コミュニケーションを図れている。	◎	◎

	その他	各種広報活動の充実	<p>■ホームページ・SNS・LINE 等による積極的な情報発信の実施。</p> <p>■SNS において利用者と交流を図ることができる事により、より実践的なご意見を運営に反映させることができるようになった。</p>	◎	◎
利用状況	利用者数	令和4年度実績 381,295人	<p>■令和5年度実績 404,624人</p> <p>■前年度と比べ23,329人増加の404,624人で着地し前年度比106%でした。来年度もさらなる人数上昇に向けて事業・広告面を強化していく。</p>	◎	○
	施設稼働率	令和4年度実績 体育室 86.7% 格技室 66.6% 研修室 16.0% 宿泊室 15.9%	<p>■令和5年度実績 体育室 86.4% 格技室 66.9% 研修室 17.5% 宿泊室 15.5%</p> <p>■前年度に比べ研修室の利用率は上昇した。全体としては前年度比100.9%稼働率が微増した。来年度はさらなる上昇を目指し新規利用者を獲得する事業などを展開していく。</p>	○	○
収支状況	収支計画と実績	前年収入計：163,258千円 (うち利用料金収入36,893千円) 支出計：170,340千円 収支＝-7,082千円	<p>■今年収入計：181,580千円 (うち利用料金収入41,596千円) 支出計：181,419千円 収支＝161千円</p> <p>■前年度と比べ利用料金を4,703千円上昇させました。</p> <p>原油高の影響(光熱水費の高騰)・隣接施設のアイスアリーナの臨時休業(約3か月程度)がありましたが支出を抑え今年度は黒字決算となった。</p>	◎	◎
	経費節減に向けた取組	節電、節水などの利用者への啓蒙、老朽部分の修繕による、経費の節減対策、節水装置の導入	<p>■軽微な修繕は積極的に職員で行った。また、ガスに関しては業者と密に連絡を取り、より削減できる契約方法での運営を行った。</p> <p>■節水器具を付けたことによる水道代の減少、LED化による電気代の減少対策を行った。</p>	◎	◎

	その他	自主事業収入の増加	<p>■R4 自主事業収入 11,320 千円</p> <p>R5 自主事業収入 11,916 千円</p> <p>■今年度からの新規教室や新規事業の開催により前年度と比べると596千円程度上昇している。</p>	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	苦情要望等について、速やかな改善・対応を行うとともに、速やかな対応が難しい事案については県と協議・検討を行う。	<p>■ご意見箱に届いたものは翌日対応、回答を館内に掲示した。アンケートによるご意見等に関しては館内で対応協議後、一覧にして館内掲示した。</p> <p>■ご意見に対し、目に見える形で対応させていただいたことで、ご利用者様より信頼をいただけていることを実感している。</p>	◎	◎
	危機管理体制の確保	危機管理マニュアルの策定及び緊急時の連絡・対応体制を構築する。	<p>■危機管理マニュアルを策定するとともに、緊急時等における危機管理体制を構築した。また、消防署と連携し、消防訓練を行った。</p> <p>■各所での連絡体制は常に更新し、各担当者が責任をもって報告まで行っている。また本社警備部と連携し、夜間等の危機管理体制も構築した。</p>	◎	◎
	県・関係機関との連携	報告・連絡・相談を密にし、連携体制を構築する。	<p>■管轄の鳴尾消防署、甲子園警察署、兵庫県教育委員会などと連絡を密にし、情報の共有に努めた。</p> <p>■各種報告書は発生当日の簡易報告と、後日原本を手渡して持参することを心がける連絡体制をとっている。</p>	◎	◎
	業務の再委託の状況	関係法定等に基づく法定点検や精密検査、特殊点検など、専門的な技術を要する業務については委託を行う。	<p>■作業計画書通り作業を行った。</p>	◎	◎

	<p>人員の適切な配置</p>	<p>経験豊かで専門性、責任感のある人材で構成し、当該施設「管理水準書」に基づいて適切な人員配置で業務を遂行する。</p>	<p>■施設の利用状況(通常時・繁忙期・閑散期)に応じて適切な人員配置を行い、円滑に業務を遂行した。</p> <p>■利用者の使用状況に合わせた柔軟な人員配置を行い、適切な利用者対応が出来た。また、体育施設協会などの専門性の高い業務に対応できる職員の雇用、接遇教育の徹底を行った。</p>	◎	◎
	<p>その他</p>	<p>トレーニング室の運営</p>	<p>■共同事業体であるコナミスポーツクラブと連携し、安全で快適なトレーニング室の運営に努めた。</p> <p>■専門性の高いスタッフによる運営を行うとともに、トレーニング室の運営時間を 21:00 から 21:45 まで延長しお客様満足度を向上した。</p>	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

利用者視点での運営を心がけ、細やかなニーズの汲み取りおよびその迅速な対応を継続することにより、前年度に比べ来館者数・収入・利用率の増加に繋がったと考えます。運営面・維持管理面・自主事業面など、お客様に受け入れられアンケートに反映されました。引き続き次年度も更なるサービス向上に取り組み運営を行っていきます。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	兵庫県立総合体育館	現指定管理期間	令和2年度～6年度(5年間)
指定管理者	ひょうごスポーツライフグループ	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

R5 年度収入は、R4 年度と比較し、約 15,440 千円増加しているだけでなく、収支決算についても約 162 千円の黒字となっており、コロナ禍以前の収入実績(R1 年度収入 92,709 千円)に、ほぼ回復している点は、評価することができる。

さらに、アンケート調査等を積極的に行い、お客様のニーズを把握することで、施設閉館時間を 21:00 から 21:45 に延長するなど、お客様のニーズに合わせた施設運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

OR1 年度利用者数: 591 千人、OR5 年度利用者数: 405 千人

利用者数は、コロナ禍前に完全に回復しているとはいえ、さらに増加の余地があるといえる。そのため、大会等以外の施設利用者(自主事業の参加者)を確保するためにも、現状にとらわれない自主事業の実施や、SNS での積極的広報が求められる。

さらに、低調な稼働率が続いている研修室(17.5%)、宿泊室(15.5%)の活用方法の見直しも行う必要があり、学校や企業などへのアプローチ方法など再検討するなど、稼働率向上に努めていただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	A	S	S	

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年度～6年度(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	・清 掃:4月～3月(週2回) ・ゴミ収集:4月～9月(週2回) 10月～3月(週1回)	計画通り実施・清掃(芦屋市シルバー人材センター)・ゴミ(株式会社ウィルパワー)利用者が増える中、清掃については業務委託では賄えない部分を職員が行い施設の美化に努めた。	○	○
	設備保守管理	引き続き業務委託を実施	北播磨・臨海建設事務所と共同実施。共同実施のため例年実績どおりである。	○	○
	植栽管理	管理棟周辺及び施設内の植栽管理	芦屋市シルバー人材センターに剪定を依頼するとともに、職員により随時実施。伸びすぎて職員で行うことができなくなった木の剪定を外部に依頼した。また、随時職員ができる範囲剪定等を実施することにより、経費削減できた。	○	○
	警備	職員による巡回及び夜間における機械警備	開館時間:職員による安全巡回 閉館時間(夜間警備):警備会社に業務委託 計画通り実施し、安全安心な施設づくりに努めた。	○	○
	小規模修繕	随時実施	救助艇修理、レンタル艇修理、散水栓等 不備なものは、迅速に対応し安全確保に努めている。また、レンタル艇の修理や軽微な補修は職員が行うことにより経費を削減するとともに利用者サービスに努めた。	○	○
	法定点検の実施	消防設備点検	北播磨・臨海建設事務所と共同実施。共同実施のため例年実績どおりである。	○	○

運營業務	開館日・開館時間等	ニーズに合わせての臨時開館及び閉館時間の延長	シーズン中の土日祝日の開館時間の繰り上げ、自然学校等学校行事での臨時開館、国体予選等行事において早朝開門や閉館時間の延長。可能な限りニーズに応え、利用者満足度の向上に努めた。	○	○
	公共性・公平性の確保	利用者への安全確保と適切な貸艇の整備	専門職員による貸艇の整備。経年劣化により老朽化しているが早期点検、早期発見により事故防止につながった。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	子どもから大人までヨット・カヌーのそれぞれの技術目標に応じた講習会を実施	利用者のレベルに応じた講習を実施しており、今年度からステップアップコースなど、さらに2講座を増設し実施した。アンケートなどから利用者のニーズを把握し、段階的に技術を習得したいという要望に応えた講座を設けたところ、大変好評であった。	○	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	講座受講生にアンケート調査を実施	施設の老朽化やキャパシティの問題等を除き、内容については概ね「満足」の結果であった。利用者サービス等について概ね良い評価を得た。引き続き満足度の向上に努めたい。	○	○
利用状況	利用者数	学校教育活動を中心とした団体利用を誘致し平日の利用促進を図る [前年度:52,481人]	自然学校での利用では、月曜の休館日を臨時開館するなど可能な限りニーズに合わせ対応した。自然学校等の利用では打ち合わせに事前来館を必要とせず、インターネットの説明や活動シートを提出してもらうことで対応するなどサービスの向上に努めた。ヨット利用に関するニーズが低下傾向にあることなどで全体の利用人数は昨年度を大きく下回ったが、秋シーズンに多数を受け入れ一定の成果を得ることができた。 [今年度:50,047人]	○	△
	施設稼働率	学校利用を増やすことにより平日の稼働率を上げる [前年度:会議室A 6.3%]	小学校15校、中学1校、高校等4校と学校の平日利用があった。 [今年度:会議室A 6.9%]	○	○

収支状況	収支計画と実績	利用料金収入 17,811 千円 指定管理料収入 29,104 千円 自主事業収入 4,132 千円	利用料金収入 17,386 千円 指定管理料収入 31,361 千円 自主事業収入 4,694 千円 利用料金収入は見込み額を下回ったが、自主事業収入で見込み額を上回ることで、全体の収入としては計画よりもプラスとなった。	○	△
	経費節減に向けた取組	支出費用の削減	空調管理や光熱水費の節減に努めた。植栽管理や廃棄物の処理等、可能な限り職員で行うとともに、利用者に光熱水費の節約を呼びかける等、経費節減に取り組んだ。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者の要望をできる限り、対応することにより、苦情を未然に防止する。	利用者の立場に立った運営を行った結果、苦情があまり聞かれなかった。職員の接客マナーの向上及び仕事への前向きな取り組みが評価につながった。	○	○
	危機管理体制の確保	安全マニュアルの作成と救助訓練の実施	長年の経験からあらゆる事故を想定し、救助訓練はもちろん、日頃から危機管理における体制づくりを行った。今後も引き続き安全・安心な施設運営を行い、無事故に向けて取り組んでいく。	○	○
	県・関係機関との連携	自然学校・課外授業の受け入れ	阪神教育事務所や各学校との連絡を図り、自然学校・課外授業等をニーズに合わせ受け入れを行った。休館日の臨時開館を行うなど、積極的に受け入れを行うことでリピーター利用が多く、好評を得て入る。	○	○
	業務の再委託の状況	機械警備の再委託	計画通りに実施した。計画通り実施し、安全安心な施設づくりに努めた。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

事業計画書に沿って安全・安心な施設づくりを行い、自主事業も順調で、使用料収入も前年度より増加した。またアンケート結果からも好評価を得ることが出来た。今年度の利用者数は貸艇の利用人数の低下などにより、前年度を下回ったので利用者数の回復を図りたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	兵庫県立海洋体育館	現指定管理期間	令和2年度～6年度(5年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

利用人数は、R4 年度を下回っているものの、事業収入は、前年度を上回っており、施設の収支経営については、年々改善がなされているといえる。

さらに、施設の老朽化が進む中、故障等による危険箇所については、各事業者と連携を密にとりながら、迅速に修繕を行っており、安全で快適な施設管理・運営を行うことができています。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

○目標収入: 利用料金収入 17,811 千円、自主事業収入 4,132 千円

○R5 年度収入実績: 利用料金収入 17,386 千円、自主事業収入 4,694 千円

目標収入を達成しているものの、収支全体で見ると、指定管理者による自己負担が発生している状態が継続しており、収入の改善だけでなく、事業計画全体を改めて見直す必要がある。

また、施設の老朽化も進んでおり、修繕費等への予算比重が多くなる傾向にあるが、瀬戸内に面する県立海洋施設という特性を最大限に活かし、施設利用者の増加を目指すために、予算編成を見直す必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
A	B	S	B	

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	株式会社 ITC	選定方法	公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課
維持 管理 業務	清掃	テニスコート・駐車場・クラブハウス・通路の日常清掃を実施し、快適な利用環境の確保に努める。	○	○
	設備保守管理	施設全域の日常点検と定期点検を適切に行い安全快適な利用環境の確保に努める。	○	○
	植栽管理	施設的美観と快適な環境を保つため、適切な植栽管理を行う。	○	○
	警備	防犯・防火・設備監視のために、施設の夜間・休館日の機械警備を行う。	○	○
	小規模修繕	利用者の安全確保と快適な利用環境の維持を目的に不具合の生じた箇所を適宜修繕する。	○	○
	法定点検の実施	各種法定点検を適時行って施設維持を行います。	○	○
運営 業務	開館時間は9:00～21:00。5月～10月は22:00まで延長と、土日祝日の7:00～の早期開館実施。休館日は毎月第1火曜日・1月1日から同月3日及び12月29日から31日まで。	○	○	

	公共性・公平性の確保	「公の施設は県民の共有財産である」という認識とユニバーサル社会の実現という視野に立ち、平等・公平・公正な利用を促進する。	インターネット予約システムにより、コート空き情報は常に公開され、土日祝日・平日ともに抽選予約により、より公平な利用管理を行った。 インターネットの使えない方には窓口対応をして、公平性を保った。また、スクール利用は最大2面に絞り、一般利用者の利用機会を減らさぬよう配慮した。	○	○
	各種事業・プログラムの実施状況	自主事業として次の各事業を実施する。 ●収入見込(単位 千円) ・テニススクール… 26,592 ・商品販売 … 2,917 ・自販機 … 785 ・その他 … 1,183 計 31,477	自主事業の収入実績 (単位 千円) ・テニススクール… 25,948 ・商品販売 … 2,745 ・自販機 … 454 ・その他 … 535 計 29,682 テニススクール人数は前年比98%でしたが、自主事業全体の売上では前年比 104%となった。	△	△
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	アンケートボックスの設置や、スタッフによる積極的なコミュニケーションを通じて、利用者の要望・意見に対して、注意を払います。	アンケートは実施しましたが、直接スタッフへの苦情などはほとんどなく、いただいたご意見には対応をした。ご満足いただけていると評価する。	○	○
利用状況	利用者数	体育・スポーツの振興を通じ、青少年をはじめ広く県民の心身の健全な発達に寄与するための拠点となる施設になるよう運営を行う。 [前年度:61,877人]	本年度総利用者数は 59,320人で、昨年実績 61,887人に対して、95.8%に留まった。	○	○
	施設稼働率	施設の利用率向上のために広く県民の皆様に周知いただく。 [前年度:80.9%]	令和5年度施設稼働率は、80.5%で前年の 80.9%から 0.4%減少しました。 4・5・6月に悪天候が比較的多く稼働率が低下しました。また、平日の利用者は前年 79%でしたが今年は 76%と減少した。	○	○
	収支計画と実績	収入 …43,185千円 ・利用料収入 …14,744千円 ・事業収入 …28,441千円 支出 …43,185千円 (県納付金 5,584千円含む)	収入 …43,908千円 ・利用料収入…14,226千円 ・事業収入 …29,682千円 支出 …43,908千円 (県納付金 5,584千円含む)	○	○

収支状況	経費節減に向けた取組	節電や消耗品の管理を強化してコスト削減を図る。	光熱水費は計画に対し 1,007 千円の削減ができました。事務消耗品費、修繕費、雑費で 99 千円削減できた。	○	○
	苦情要望等の対応体制・内容	利用者からの苦情要望に対しては、迅速かつ誠意ある対応を行う。	利用者からの苦情要望については、窓口・電話・Eメールなどで随時受け付け、即時責任者へ報告し迅速に回答し、適切に対応をした。	○	○
運営体制	危機管理体制の確保	緊急時の対応マニュアルについて全スタッフが熟知し行動出来るよう、研修を実施。	消防点検(年2回)・高圧受電設備点検(月1回)AEDパット・バッテリー交換など緊急時に備えた。また、全スタッフAED講習を受講するなど研修でも危機管理意識を高めた。	○	○
	県・関係機関との連携	管理運営に生じた重要な事項について、速やかに県教育委員会に報告し指示を受けるなど、連携を図る。	重要事項については必ず県教育委員会と連絡・報告をおこなった。また、緊急時連絡体制表を作成し、スタッフに意識付けをした。	○	○
	業務の再委託の状況		関係規定に基づき適切に再委託を行った。	○	○

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

自主事業であるテニススクールの生徒数をコロナ以前の 300 人台にまで戻せるよう、募集活動の強化を図るとともに、在籍者へのサービス向上に努めたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	兵庫県立神戸西テニスコート	現指定管理期間	令和3年度～7年度(5年間)
指定管理者	株式会社 ITC	選定方法	公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

R5 年度の利用人数は、4～6月の悪天候によって、昨年度と比較し若干減少したものの、事業収入については、R4 年度と比較して増加しており、運営状況は好調であるといえる。

また、比較的珍しい軟式テニススクールも実施しており、一般利用者だけではなく、幅広い層のスクール生を確保することで、利用者増加に努めている。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

利用者アンケートを引き続き実施することで、利用者ニーズを把握し、利用者にとって快適な施設運営を継続して実施していただきたい。

また、自主事業で実施しているイベント集客が弱い傾向にあるため、イベント内容の見直しを行うことで、イベント集客改善に努めていただきたい。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
B	B	B	B	

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である

令和5年度 管理運営評価シート

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和4年度～6年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者による自己評価

評価項目	業務目標 (事業計画ベース)	実績・評価	指定 管理者	施設 所管課	
維持管理業務	清掃	施設的环境を維持し、快適な環境を保つため、清掃作業を行う。	本館では、職員が毎日清掃を実施した。付帯設備では、清掃作業を委託した。日常清掃を77日、大規模清掃を2回実施した。	◎	◎
	設備保守管理	日常管理業務に加えて、法定点検、定期点検等を行い、性能を維持する。	県有建築物の定期点検の実施を適法かつ適切に行うことができた。	◎	◎
	植栽管理	芝、樹木の管理等。	芝刈り、除草、剪定を随時実施。利用者からは気持ちよく弓道ができる環境であるとの声が多い。	◎	◎
	警備	施設内の秩序を維持し、事故、盗難、破損等の犯罪及び火災等の災害の発生を警戒・防止し、財産の保全を図るとともに、利用者の安全を守るために、保安警備業務を適切に行う。	機械警備、巡回、出入管理、車両誘導、交通整理、防災監視盤による監視、緊急連絡及び処理、警戒機器の保守点検を業者委託により随時適切に行った。	◎	◎
	小規模修繕	専有部分における建築物等について、不都合の無い状態を維持し、かつ美観を維持する。	令和5年度は、遠的ネット・テント改修工事と玄関安全確保工事を行った。日々の点検において、不都合が見られる箇所は即座に修繕を行い、利用者に不備が無いよう対応した。	◎	◎
	法定点検の実施	法定点検ほか、職員による施設、設備、備品の安全点検を励行し、利用者の安全確保を図る。	消防点検については、業者委託を行い適切に実施することができた。	◎	◎
運営業務	開館日・開館時間等	休館日は月曜日(ただし、月曜日が祝日の場合はその翌日)、12/29 から 1/3 まで、開館時間は9時から17時まで。	左記の開館時間に加え、休館日でも特に開館が必要と考えられる競技会等では、臨時開館に備えた。また、大会等で、利用者からの希望に応じ、利用時間を延長した。	◎	◎
	公共性・公平性の確保	原則として、専用利用は受付順での利用としている。	計画通り実行できた。	◎	◎

	各種事業・プログラムの実施状況	年間2回の講習会を実施。1講習150分とし、初心者教室10回(5日間)の講習開設する。	専用利用の少ない時期を選び、年に2回講習会を行っている。どちらの講習会も応募者は多数に上り、人気の講習会となっている。	◎	○
	利用者満足度調査結果(アンケート調査)	弓道教室参加者にアンケートを実施する。	年に2回開催される弓道教室でアンケートを実施した。大半の参加者の方に満足して頂いている。	◎	○
利用状況	利用者数	年間で約2万人の来館を目標とする。 [前年度:23,772人]	29,111人の来場があった。 本館(射場)22,920人 新館(付帯設備)6,191人	◎	△
	施設稼働率	弓道場専用利用75%を目標とする。 [前年度:77.3%]	81.5%であった。	◎	○
収支状況	収支計画と実績	収入 指定管理料10,059,000円 利用料金等収入3,400,000円 自主財源2,327,000円 支出 人件費6,490,000円 管理運営費9,296,000円	収入 指定管理料10,059,000円 利用料金等収入3,172,489円 自主財源4,405,902円 支出 人件費7,832,595円 管理運営費9,816,796円	×	×
	経費節減に向けた取組	事業収入の確保や、施設維持管理を適切に行い、コスト削減、環境負担低減に努める。	受講料の単価を増額した。また、固定費の見直しを行った。	○	○
運営体制	苦情要望等の対応体制・内容	利用者から寄せられる様々な苦情要望に対しては、迅速かつ適切に誠意ある対応を行う。	利用者の声を聞き取り、苦情・要望等の把握に努めた。	◎	◎
	危機管理体制の確保	災害発生時の対応、緊急連絡先の周知の徹底を図る。急病者への迅速な対応等。	危機管理連絡体制を整備し、危機管理マニュアルを作成した。	◎	◎
	県・関係機関との連携	兵庫県教育委員会事務局体育保健課との連携を図る。	毎月の利用料金並びに利用状況の報告に加え指定管理事業報告書の提出等、その他の連絡事項も随時報告できた。	◎	◎
	業務の再委託の状況	専門性の高い業務については再委託を行う。	清掃、機械警備、消防点検、インターネットの保守など専門性の高い業務については再委託を行った。	◎	◎

2 総合的な自己評価・来年度の取組目標・課題等について

大きな事故・事件なく、運営することができた。コロナウイルスの影響がほぼない状態での運営は数年ぶりであったが、近畿ブロック大会などの大規模大会も無事開催することができた。また、令和6年度の運営に向けて、関係団体との打合せを行い、今後の在り方を検討した。また、経営状況についても固定費の見直しなどを行う。健全な経営のため、利用料金の単価増額や利用人数の増加が課題となるため、そのための取組を行っていきたい。

令和5年度 総合評価シート

評価者: 県民生活部 スポーツ振興課

施設名	兵庫県立弓道場	現指定管理期間	令和4年度～6年度(3年間)
指定管理者	(公財)兵庫県スポーツ協会	選定方法	非公募

1 指定管理者の業務実績に関する評価

県内主要大会の大半が開催される県内最大規模の弓道場であり、数多くの弓道関係団体が当該施設を利用しているが、施設利用者アンケートでは、多くの利用者が「満足」していると回答しており、適切な施設運営が行われているといえる。

また、R5 年度利用者数は、29,111 人であるが、コロナ禍以前の利用者数は、27,187 人(R1 年度)となっており、コロナ禍から順調に回復しているといえる。

2 業務改善に向けた分析・指導内容

R5 年度利用者数及び収入(利用料金及び自主事業)は、ともに R4 年度実績を上回っているものの、収支全体で見ると、指定管理者に自己負担が発生している状態が続いており、事業計画全体を改めて見直す必要がある。

また、新館については、年間通して利用者数及び稼働率の低調な状態が続いており、今後の運用方法について、検討していく必要がある。

3 施設所管課による総合評価

1年目	2年目	3年目	2年目	3年目
B	B	A	—	—

総合評価指標(管理運営評価シートの施設所管課による評価結果を基準とする)

S	◎が 80%超である
A	◎が 60%超 80%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
B	◎が 60%以下であり、かつ△と×の合計が 20%以下である
C	△と×の合計が 20%超 40%以下である
D	△と×の合計が 40%超である